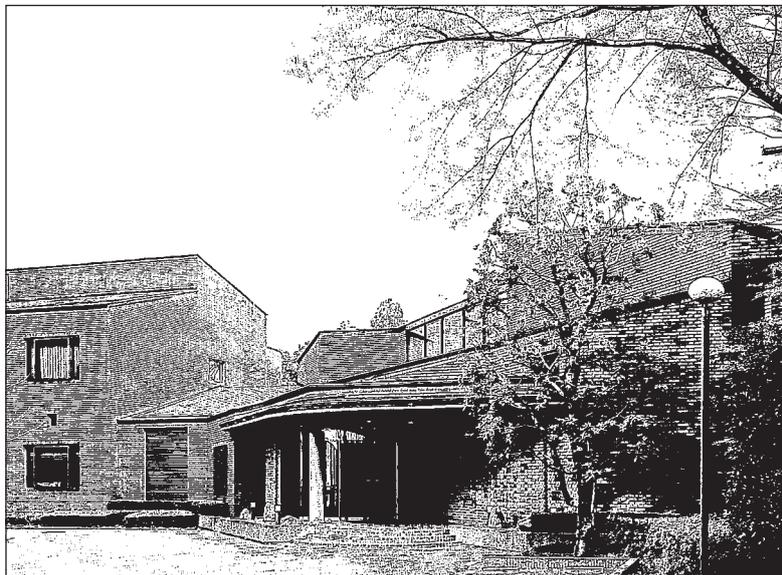


公益財団法人
加藤記念バイオサイエンス振興財団

平成22年度 年報

Annual Report 2010



Kato Memorial Bioscience Foundation

公益財団法人
加藤記念バイオサイエンス振興財団
平成22年度 年報

Annual Report 2010

Kato Memorial Bioscience Foundation

目 次

はじめに	1
I. 平成 22 年度事業報告	
1. 概要	2
2. 年間の経緯	2
3. 事業	
(1) 助成事業	
1) 研究助成	3
2) 国際交流助成	6
3) 学会等開催助成	9
(2) 年報の発行	10
(3) 第 1 回研究助成報告・交流会	10
(4) 第 22 回研究助成贈呈式	13
4. 理事会・評議員会等	18
5. 管理業務	19
6. 人の異動	20
7. 平成 22 年度決算報告	25
II. 平成 23 年度事業計画	
1. 基本方針	28
2. 事業の内容	28
3. 平成 23 年度事業予算	30
4. 平成 23 年度財団役員等	31
III. 公益財団法人移行の経緯	34
IV. 助成者からの報告	
1. 第 20 回研究助成報告	41
2. 第 22 回国際交流助成報告	106
V. 平成 22 年度の財団の運営と組織	
1. 財団の概要	139
2. 設立の趣意	139
3. 目的	139

4. 組織	140
VI. 助成実績および財務状況推移	141
VII. 平成 22 年度募集要項	145
VIII. 平成 22 年度財団役員等	151
木下祝郎名誉会長を悼む	154
おわりに	155

Intentionally blank page

はじめに



理事長 平田 正

当財団は、このたび新公益法人制度の移行認定を受け、2011年7月1日付けで公益財団法人として新たなスタートを切ることになりました。

当財団は、協和発酵工業株式会社（現協和発酵キリン株式会社）の創立者である加藤辨三郎博士の「科学技術の振興を図り、社会の発展に貢献したい」という遺志を実現すべく、協和発酵工業株式会社の創立40周年記念事業として1988年（昭和63年）に設立されました。

以来、バイオサイエンスの基礎分野において創造的かつ先駆的研究を目指す若き研究者に対し、2010年度までにのべ494名の研究助成、605名の国際交流助成を実施し、助成金の総額は11億1,500万円に及びました。また、130件の学会等開催助成を行うとともに、22回の公開シンポジウム開催とその内容を出版し、バイオサイエンスの啓発にも取り組んでまいりました。

これまでの財団活動を振り返るとき、歴代財団の役員、評議員、選考委員に名前を連ねる我が国生命科学領域の錚々たる先生方、また多くの関係者のご支援に改めて感謝する次第です。

当財団が歩んできた道程は、我が国及び世界のバイオサイエンスが飛躍的に発展した時期でもあります。当財団としては、その発展にささやかながらお手伝いできたことは大きな喜びであり、同時に若き研究者から次代をリードする成果が生み出されることを大いに期待するものであります。

少子高齢化が進むなか、資源の乏しい我が国が今後とも発展していくうえで、また地球規模での医療・食糧・環境・エネルギー等の大きな課題を克服するためには、バイオサイエンスの更なる発展が強く求められております。

公益財団法人として新たなスタートを切るにあたり、財団活動を継続することの意義を改めて確認し、バイオサイエンスの振興と発展のため、引き続き努力していく所存でございます。

今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

I. 平成 22 年度事業報告

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

1. 概要

平成 22 年度は、平成 22 年 2 月 5 日開催の第 43 回理事会・評議員会で決議された事業計画に基づき、バイオサイエンス分野の研究者に対する研究助成（25 件総額 5,000 万円）、国際交流助成（31 件総額 770 万円）、及び学会等開催助成（20 件総額 400 万円）、並びに第 1 回研究助成報告・交流会開催などの諸事業を行った。

また平成 23 年 2 月 25 日に公益財団法人への移行認定申請を行なった。

2. 年間の経緯 (平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月)

平成 22 年

- 4 月 1 日 「最初の評議員の選任に関する理事の定め」を文部科学大臣より許可取得
- 5 月 14 日 会計及び業務監査
- 6 月 4 日 第 44 回理事会・評議員会 於：九段会館
- 6 月 14 日 第 22 回研究助成及び第 22 回国際交流助成（下期）募集開始
(8 月 31 日締切)
- 6 月 21 日 平成 21 年度事業状況報告書提出 (文部科学省)
- 8 月 1 日 財団年報第 11 号（平成 21 年度）刊行
- 9 月 8 日 臨時理事会 於：協和発酵キリン本社
- 9 月 17 日 第 22 回国際交流助成（後期）選考会 於：KKR ホテル東京
- 10 月 1 日 第 22 回学会等開催助成募集開始 (10 月 31 日締切)
- 10 月 5 日 第 22 回研究助成振分会 於：KKR ホテル東京
- 10 月 22 日 研究助成第 1 回成果報告・交流会 於：KKR ホテル東京
- 12 月 4 日 第 22 回研究助成選考委員会
第 21 回学会等開催助成選考会 於：如水会館
- 12 月 10 日 臨時理事会 於：協和発酵キリン東京リサーチパーク

平成 23 年

- 1 月 7 日 最初の評議員選定委員会
於：協和発酵キリン東京リサーチパーク
- 2 月 4 日 第 45 回理事会・評議員会 於：如水会館
- 2 月 25 日 公益財団法人移行認定申請 (内閣府 公益認定等委員会)
- 3 月 4 日 第 22 回研究助成贈呈式 於：如水会館
- 3 月 16 日 平成 23 年度事業計画・予算書提出 (文部科学省)
- 3 月 29 日 第 23 回国際交流助成（上期）選考会 於：KKR ホテル東京

3. 事業

(1) 助成事業

平成 22 年度助成事業のまとめ（平成 21 年度対比）

事業名	応募件数		助成件数		採択率 (%)		予算 (万円)		実績 (万円)	
	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21
研究助成	251	251	25	25	10.0	10.0	5,000	5,000	5,000	5,000
メディカルサイエンス	136	148	12	10	8.8	6.8	2,400	2,000	2,400	2,000
バイオテクノロジー	96	80	10	10	10.4	12.5	2,000	2,000	2,000	2,000
指定研究助成	19	23	3	5	15.8	21.7	600	1,000	600	1,000
国際交流助成	109	63	31	28	27.5	44.4	750	750	770	705
上期	47	20	16	10	34.0	50.0	—	450	435	280
下期	62	43	15	18	24.2	41.9	—	300	335	425
学会等開催助成										
20 回		10		10		100.0		200		200
21 回	15		10		66.7		200		200	
22 回	11		10		90.9		0		200	

1) 研究助成（一件 200 万円、25 名、総額 5,000 万円）

全体の助成件数及び予算は前年度と同じとする一方、前年度までの応募・選考状況を考慮し、募集区分別採択数の見直し、及びメディカルサイエンス分野とバイオテクノロジー分野の定義の明確化を行った。

6 月下旬から 8 月末まで募集した結果、3 つの募集区分全体で 251 件（前年度 251 件）の応募があった。そのうち女性研究者からの申請は 56 件（同 57 件）であった。全選考委員（20 名）による事前の一次審査をふまえ、平成 22 年 12 月 2 日に選考委員会を開催した。その結果、メディカルサイエンス分野 12 名、バイオテクノロジー分野 10 名、指定研究助成分野 3 名の候補者 25 名が選出された。

応募総数は前年度と同じであったが、区分別採択数の見直しと募集枠定義明確化により、募集区分間の採択率の差は前年度より縮小した。

平成 23 年 2 月 4 日に開催された 45 回理事会・評議員会で、選考委員会答申通り、助成対象者（助成者）合計 25 名が決定された。

平成 23 年 3 月 4 日開催の贈呈式を経て、3 月末日までに 25 名全員に対する助成金給付を完了した。助成者名簿を以下に示す。

第22回(平成22年度)研究助成者名簿

1-1) 「研究助成」メディカルサイエンス分野(12名)

(1件200万円)

	氏名	所属機関名	職名	研究題目
1	板倉 陽子	東京都健康長寿医療センター研究所 老年病研究チーム血管医学	研究員	糖鎖プロファイルを利用した老化指標開発の基盤研究
2	植村 健	東京大学大学院医学系研究科 分子神経生物学教室	助教	シナプス形成の分子機構の解明
3	宇賀 貴紀	順天堂大学医学部 生理学第一講座	准教授	柔軟な判断の神経基盤の解明
4	大場 雄介	北海道大学大学院医学研究科 病態医科学分野	准教授	FRETを用いたCML分子標的治療薬薬効評価法とその応用による薬剤耐性細胞の単離
5	川野 雅章	埼玉医科大学医学部 分子生物学教室	助教	インフルエンザウイルス特異的CTLの誘導を増強するプラットフォームの開発
6	坂田 麻実子 (柳元)	筑波大学 人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 血液病態制御医学分野(血液内科)	講師	Hes1による骨髄性白血病幹細胞の発生・維持の機序の解明
7	瀬戸口 留可	理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター 免疫制御研究グループ	研究員	メモリーCD8T細胞の恒常性維持メカニズムの解明
8	中台(鹿毛) 枝里子	東京女子医科大学医学部 第二生理学教室	助教	物質透過性を規定する有窓細胞の孔構造とサイズ決定の分子基盤解明
9	西原 秀典	東京工業大学大学院 生命理工学研究科 生体システム専攻 進化・統御学講座	助教	レトロポゾン由来エンハンサーを介した口蓋形成の分子機構
10	秦 勝志	東京都臨床医学総合研究所 カルパインプロジェクト	主席 研究員	細胞内蛋白質分解システム不全による胃疾患の診断・予防に向けた基盤的研究
11	山本 雅裕	大阪大学大学院医学系研究科(C6) 感染免疫医学講座免疫制御学教室	准教授	急性トキソプラズマ症におけるエフェクター分子機能の解明
12	吉村 健太郎	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 解剖学講座細胞生物学教室	助教	画期的イオン化法を用いた質量分析型迅速がん診断装置の開発

1-2) 「研究助成」バイオテクノロジー分野 (10名)

(1件 200万円)

	氏名	所属機関名	職名	研究題目
1	筏井 宏実	北里大学獣医学部獣医学科 獣医寄生虫学研究室	講師	マラリア原虫ガメトサイト形成の決定・分化機構の解明と抗ガメトサイト活性物質の探索
2	金井 保	京都大学大学院工学研究科 合成・ 生物化学専攻 生物化学工学分野	講師	超好熱菌からの新規糖質関連遺伝子の同定
3	川上 勝	北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス研究科	講師	革新的タンパク質分子模型作製技術の開発による構造生物学の進展
4	小柴 琢己	九州大学大学院理学研究院 生物科学部門/統合生物学講座	准教授	細胞内におけるミトコンドリア形態調節機構とその生理的役割の解明
5	永尾 潤一	福岡歯科大学 歯学部 基礎医歯学部門 機能生物化学講座 感染生物学分野	助教	病原真菌カンジダの細胞間情報伝達の制御に基づく新規抗真菌薬開発への基盤研究
6	高村 浩由	岡山大学大学院 自然科学研究科 機能分子化学専攻	助教	強力な生物活性を有する巨大海洋天然物の合成と構造
7	中崎 敦夫	名古屋大学大学院生命農学研究科 生物有機化学研究分野	准教授	多環式トリテルペノイド類の迅速合成法の開発
8	平野 展孝	日本大学工学部 生命応用化学科 生命分子工学研究室	助教	有用物質生産に向けた微生物ゲノムへの長鎖 DNA 高効率部位特異的導入法の開発
9	鮎 信学	静岡県立大学食品栄養科学部 ケミカルバイオロジー研究室	准教授	次世代型生体触媒の開発による植物アルカロイドの生産
10	村上 一馬	京都大学大学院農学研究科 食品生物科学専攻 生命有機化学分野	助教	光親和性標識法及び固体 NMR 法を用いたアミロイドβ凝集阻害機構の解明

1-3) 「指定研究助成」癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究 (3名)

(1件 200万円)

	氏名	所属機関名	職名	研究題目
1	田村 智彦	横浜市立大学大学院 医学研究科 免疫学教室	教授	慢性骨髄性白血病の根治のための革新的治療法の開発に向けた橋渡し研究
2	中田 慎一郎	慶應義塾大学医学部 総合医科学研究センター (咸臨丸)	特別研究講師	脱ユビキチン化酵素 OTUB1 阻害の癌化学療法への応用
3	増富 健吉	国立がん研究センター研究所 がん幹細胞研究分野	分野長	がん幹細胞を標的としたトリプルネガティブ乳がんに対する治療戦略

2) 国際交流助成 (地域により1件10万円から30万円、31名、総額770円)

上期は47件の応募に対して16件の助成を行ない、下期は62件の応募に対して15件の助成を行った。助成額は上期435万円、下期335万円であった。

なお、タイムリーに助成できるよう段階的に進めていた上期募集時期見直しは今期で完了した。

助成者名簿を以下に示す。

第22回(平成22年度)国際交流助成者名簿

2-1) 第22回加藤記念国際交流助成(上期) (16名)

番号	申請者氏名	所属機関名	職名	学会名	開催場所	助成額(万円)
1	石井 敦士	福岡大学医学部 小児科学教室	助手	9th European Congress on Epileptology	ギリシャ	30
2	岩月 正一郎	名古屋市立大学大学院 医学研究科 腎・泌尿器科学分野	大学院生	1st World Congress of Pediatric Urology, American Urological Association 2010 Annual Meeting (共同開催)	アメリカ、カリフォルニア州	20
3	大松 華子	帝京大学医学部 皮膚科学講座	助手	97th Annual Meeting The American Association of Immunologists	アメリカ、メリーランド州	25
4	小澤 俊幸	大阪市立大学 皮膚科・形成外科	研究医	70th Annual Meeting of the SID (Society for Investigative Dermatology)	アメリカ、ジョージア州	25
5	木平 孝高	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 薬理学	助教	The WorldPharma2010 (16th World Congress on Basic and Clinical Pharmacology)	デンマーク	30

6	肥塚 崇男	京都大学 生存圏研究所 附属生存圏学際萌芽 研究センター	研究員	Banff Conference on Plant Metabolism 2010	カナダ、ア ルバータ 州	20
7	塩田 真己	九州大学大学院 医学系学府 臓器機能医学専攻 泌尿器科	大学院 生	American Urological Association, Annual Meeting 2010	アメリカ、 カルフォル ニア州	20
8	相馬 雅代	北海道大学大学院 理学研究院 生命理学部門 生命機能科学分野	准教授	International Congress of Neuroethology	スペイン	30
9	高橋 里史	慶應義塾大学 医学部 脳神経外科	専修医, 研究員, 大学院生	9th Congress of the European association of Neurooncology	オランダ	30
10	丹羽 隆介	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 「次代を担う若手大学 人育成イニシアティブ」	助教	18th International Ecdysone Workshop	チェコ	30
11	福田 牧葉	東京工業大学大学院 生命理工学研究科 分子生命科学専攻 相澤研究室	大学院 生	Gordon Research Conference Proprotein Processing, Trafficking & Secretion	アメリカ、 ニューハ ンプシャ ー州	25
12	前田 将司	兵庫県立大学大学院 生命理学研究科 ピコバイオロジー研究所 蛋白質構造解析研究部門	特任助 教	Gordon Research Conference Ligand Recognition & Molecular Gating	イタリア	30
13	三屋 史朗	名古屋大学大学院 生命農学研究科 生物圏資源学専攻 循環資源学講座 生命共生学研究分野	助教	XVII Congress of the Federation of European Societies of Plant Biology	スペイン	30
14	宮本 理人	京都大学 医学部附属病院 内分泌代謝内科	産学官連 携助教・ 特定助教	11th International Convention on Obesity	スウェー デン	30
15	村井 正俊	京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻	助教	16th European Bioenergetics Conference (EBEC2010)	ポーラン ド	30
16	李 文静	名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 五島研究室	大学院 生	EMBO Conference Series: "Microtubules- Structure, Regulation, Functions"	ドイツ	30

2-2) 第22回加藤記念国際交流助成(下期) (15名)

	申請者氏名	所属機関名	職名	学会名	開催場所	助成額 (万円)
1	秋山 裕和	九州大学大学院工学府 化学システム工学専攻 分子・生物システム工学 講座(上平研究室)	大学院 生	International Conference on Chemical Engineering 2010 (ICCE'10)	アメリカ、 カリフォル ニア州	20

2	浅田 直之	東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻 遺伝子実験施設 眞田研究室	大学院 生	Neuroscience 2010	アメリカ、 カリフォル ニア州	20
3	池永 直樹	九州大学大学院 医学研究院 臨床・腫瘍外科	大学院 生	2010 American Pancreatic Association Annual Meeting	アメリカ、 イリノイ 州	25
4	大澤 志津江	神戸大学大学院 医学研究科 細胞生物学分野 G-COE 井垣研究室	グロー バル COE 研究員	52nd Annual Drosophila Research Conference	アメリカ、 カリフォル ニア州	20
5	折田 和泉	東京工業大学大学院 生命理工学研究科 生物プロセス専攻	助教	International Symposium on Biological Polyesters 2010	ドイツ	30
6	片山 耕大	名古屋工業大学大学院 工学研究科 未来材料創成工学専攻 神取研究室	大学院 生	PACIFICHEM 2010	アメリカ、 ハワイ州	20
7	北舘 祐	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 生殖細胞研究部門	助教	Cold Spring Harbor Laboratory, Germ cells meeting	アメリカ、 ニューヨ ーク州	25
8	篠原 明仁	東京大学大学院 医学系研究科 血液・腫瘍内科	助教	52nd ASH Annual Meeting and Exposition	アメリカ、 フロリダ 州	25
9	武田 朱公	大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学	研究生	Neuroscience 2010	アメリカ、 カリフォル ニア州	20
10	仲野 千秋	東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用生命工学専攻 醗酵学研究室	特任研 究員	PACIFICHEM 2010	アメリカ、 ハワイ州	20
11	日出山 拓人	東京大学 保健・健康推進本部 東京大学医学部附属病院 神経内科学講座	助教	Neuroscience 2010	アメリカ、 カリフォル ニア州	20
12	鮎 信学	静岡県立大学 食品栄養科学部 食品生命科学科 ケミカルバイオロジー研究室	准教授	PACIFICHEM 2010	アメリカ、 ハワイ州	20
13	森谷 純治	千葉大学大学院 医学研究院 心血管病態解析学	助教	American Heart Association Scientific Sessions 2010	アメリカ、 イリノイ 州	25
14	矢木 宏和	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 生命分子構造学分野	助教	98th Indian Science Congress	インド	20
15	山本 英一郎	熊本大学 医学部附属病院 循環器臨床研究先端医療 寄附講座	特任助 教	American Heart Association 2010	アメリカ、 イリノイ 州	25

3) 学会等開催助成 (1件20万円、10件、総額200万円)

これまで学会等開催助成は、前年度に募集から選出までを行ない、次年度に入ってから助成を行っていた。今回から同一年度中に募集から選出、助成金給付までを済ませることとした。そのため今年度に限り、2回分(200万円×2)の助成金給付を行なった。第21回助成は平成22年4月に、第22回助成は平成23年3月に助成を行なった。

助成名簿を以下に示す。

学会等開催助成先名簿

3-1) 第21回(平成22年度開催)加藤記念学会等開催助成(10件)

(1件20万円)

学会名	申請者	所属先・職名	日程	場所	参加者
日本分子生物学会 第10回春季シンポジウム	大隅 典子	東北大学大学院 医学系研究科教授	H22.6.7- 6.8	宮城	300
第16回日本遺伝子治療学会 年次学術集会	小澤 敬也	自治医科大学 遺伝子治療研究部教授	H22.7.1- 7.3	栃木	265
第12回日本RNA学会	鈴木 勉	東京大学大学院 工学研究科教授	H22.7.27- 7.29	東京	310
Neuro2010 第33回日本神経科学大会、 第53回日本神経化学学会大会、 第20回日本神経回路学会大会 合同大会における「日本神経科学学会 将来計画委員会 基礎臨床統合シンポジウム」	岡部 繁雄	東京大学医学部 神経細胞生物学分野教授	H22.9.3	神戸	200
第50回生命科学 夏の学校	谷友 香子	東京大学大学院 薬学系研究科	H22.9.3- 9.5	神奈川	250
第2回抗加齢内分泌研究会	柳瀬 敏彦	福岡大学医学部 内分泌糖尿病内科教授	H22.9.5	福岡大	100
第23回小児外科リサーチシンポジウム	山高 篤行	順天堂大学 小児外科学講座教授	H22.9.12- 9.14	東京	200
第1回国際バイオキュレーション学会大会	五條堀 孝	国立遺伝学研究所 副所長・教授	H22.10.6- 10.9	千葉	300
第32回国際がん登録協議会学術総会	味木 和喜子	国立がんセンター がん対策情報センター	H22.10.11- 10.15	横浜	250
アンチセンスシンポジウム	川上 純司	甲南大学フロンティア サイエンス学部教授	H22.12.2- 12.3	甲南大	150

3-2) 第22回(平成23年度開催)加藤記念学会等開催助成(10件)

(1件20万円)

大会名	申請者	所属機関	日程	場所	参加者
日本分子生物学会 第11回春季シンポジウム	平尾 敦	金沢大学 がん研究所教授	H23.5.25- 5.26	石川	405
日本脂質栄養学会 第20回大会	川端 輝江	女子栄養大学 栄養学部教授	H23.9.2- 9.3	女子栄養大学	300
第3回坑加齢内分泌研究会	里村 一人	鶴見大学歯学部 口腔内科学講座教授	H23.9.4	鶴見大学	130
第25回国際比較白血病学会 国際シンポジウム	渡邊 俊樹	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授	H23.9.15- 9.17	東京大学	340
第2回国際バイオファブリ ケーション学会	中村 真人	富山大学大学院 理工学研究部(工学)教授	H23.10.6- 10.8	富山	150
第55回日本医真菌学会学術 集会	比留間 政太郎	順天堂大学医学部 附属練馬病院教授	H23.10.21- 10.22	東京	530
第9回国際AAAタンパク質 カンファレンス	小椋 光	熊本大学 発生医学研究所教授	H23.11.6- 11.10	熊本	130
第16回日本生殖内分泌学会 学術集会	宮本 薫	福井大学 医学部教授	H23.11.19	東京	140
第8回AFMC国際医薬化学 シンポジウム	柴崎 正勝	(財)微生物化学研究会 常務理事	H23.11.29- 12.2	東京	800
CDBシンポジウム2012	林 茂生	理研発生・再生科学総合 研究センター グループディレクター	H24.3.26- 3.28	理化学 研究所 (神戸市)	200

(2) 年報の発行

平成22年8月1日付けで平成21年度年報(第11号)を250部発行し、関係者へ配布した。

内容 : 理事長挨拶、平成21年度事業報告、平成22年度事業計画、助成者からの報告
(第19回研究助成、第21回国際交流助成)、平成21年度の財団の運営と組織、
平成21年度研究助成・国際交流助成募集要項、平成21年度財団役員等

経費 : 31万円

(3) 第1回研究助成報告・交流会

助成者による最新の研究成果報告と関係者間の交流を通じて、研究者ネットワーク構築に寄与すると共に財団に対する助成者意見を把握することを目的に、初めての試みとして標記の会を開催した。

初回にあたる第1回の報告対象者は平成22年3月末で2年間の助成期間が終了した第19回研究助成者であった。発表においては3月末までの研究助成成果はもとより、研究背景、その後の進展や同じ研究室や共同研究者等の成果などについても差し支えない範囲での紹介をお願いした。なお今回の会合は研究助成開始後に企画したものであり、対象者には事後的に参加を要請した。

平成 22 年 10 月 22 日に KKR ホテル（東京）にて行なわれた会には、対象助成者全 28 名のうち 14 名のほか、理事、評議員、選考委員、出捐会社関係者等、49 名が参加した。平田理事長から本会の趣旨、財団の現況等に触れた主催者挨拶があり、その後財団事務局長の司会により各助成者による口頭発表が行われた。発表者とは異なる専門分野の研究者から違った視点からの指摘があるなど、熱のこもった質疑応答が行われた。

全員の口頭発表が終った後、ポスターセッション形式の交流会に移った。選考委員の京都大学大学院農学研究科の阪井康能教授の挨拶の後、ポスターを前にしての交流が始まった。助成者は 2 年半前の贈呈式以来の再会であり、活発な意見交換を行っていた。また役員や選考委員、事務局にとっても贈呈後の研究の進捗を直接確認する良い機会となった。後日発表者より、さまざまな専門の研究者と話せたことが良かった等、肯定的な感想が多く寄せられた。

（経費 187 万円。）

主な出席者（敬称略）

財団役員等： 平田 正(理事長)、高橋 充(常務理事)、別府輝彦、大塚榮子、香川靖雄、木村 光、郷 通子(以上 理事)、長澤寛道、福山 透(以上 評議員)、中野洋文(元評議員)、長田裕之、阪井康能、佐藤隆一郎(以上 選考委員)

出捐会社関係： 花井陳雄、橋本信一、山下武美

第1回研究助成報告・交流会発表者

氏名	所属	職名	演題
士反 伸和	神戸薬科大学薬学部	助教	プレニル化芳香族生産機構の解明と大量生産への基盤構築
牧野 利明	名古屋市立大学大学院 薬学研究科	准教授	流入型トランスポーターを介する機能性食品と医薬品間の相互作用
小川 拓哉	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科	助教	非必須アミノ酸 L-セリンの新規アナログによる骨粗鬆症改善法の開発
徳山 英利	東北大学大学院 薬学研究科	教授	多環性高次構造を有するアルカロイド類の合成研究
井上 将行	東京大学大学院 薬学系研究科	教授	天然神経毒の構造利用による生体組織の光制御
栗栖 源嗣	大阪大学蛋白質研究所	教授	植物が持つ機能的還元力分配システムとその分子装置の構造研究
田中 信忠	昭和大学 薬学部	准教授	ホスミドマイシン標的酵素の立体構造に基づく新規抗マラリア薬の創製
川崎 善博	東京大学 分子細胞生物学研究所	講師	APC の異常を介した腸管 Adenoma 形成における Asef/Asef2 の関わり
櫻井 香里	東京農工大学大学院 共生科学技術研究院	特任 准教授	癌抑制転写因子 p53 由来 α -ヘリックスペプチドを基盤とする癌蛋白質阻害剤の創製
吉田 清嗣	東京医科歯科大学 難治疾患研究所	准教授	DNA 障害性アポトーシス誘導における p53 のリン酸化とその意義
山内 淳司	国立成育医療センター 研究所	室長	感覚神経ニューロパチーに関与するシグナル伝達経路の解明とその治療標的分子の同定
内村 健治	国立長寿医療センター 研究所	室長	アルツハイマー病モデルマウス脳内に発現されるケラタン硫酸糖鎖の解析
佐藤 浩二郎	埼玉医科大学 医学部	講師	システムバイオロジー的アプローチによる T 細胞・破骨細胞活性化機構の比較解析
和多 和宏	北海道大学大学院 先端生命科学研究院	准教授	言語野機能部位同定を目指した遺伝子プローブの探索：ソングバードを用いた先導的研究

（４）第 22 回研究助成贈呈式

第 22 回研究助成贈呈式を平成 23 年 3 月 4 日に如水会館（東京）にて開催した。まず最初に理事長より挨拶があり、次いで選考委員長による選考経過報告の後、指定研究助成を含む全 25 名（1 名代理出席）に対して、理事長より助成金目録及び記念盾が贈呈された。その後、来賓の文部科学省研究振興局ライフサイエンス課・石井康彦課長、および協和発酵キリン株式会社・松田謙社長より、それぞれ助成者への祝辞が述べられた。

引き続き、今年度新たに就任した 2 名の選考委員による特別講演が行なわれた。

- 1) 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授 高橋淑子氏
「動物の発生にみる細胞の奇妙なふるまい」
- 2) 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 佐藤隆一郎氏
「コレステロール代謝制御研究から見えてきたこと」

講演では演者の最新の研究成果だけではなく、自分自身の研究生活の経験を基に、若い研究者へ向けてのメッセージも述べられた。

式典終了後、懇親会場に移動してポスターセッション形式で各助成者による研究計画発表会が行われた。さまざまな分野の研究が紹介され、助成者に出席者も加わって近い研究分野同士、あるいは異分野間でディスカッションが展開された。その後、三品昌美評議員による乾杯の発声があり、同会場での祝賀会に移行した。

（経費 314 万円）

主な出席者（敬称略）

来賓： 石井康彦（文部科学省）、松田 謙（出捐会社）

財団元役員等： 木下祝郎（名誉会長）、菅野晴夫（名誉理事）、金澤一郎、中野洋文（以上元評議員）、田中正男、鈴木武夫、岡 徹生、小室敏雄（以上元常務理事）、古屋 晃、白幡公勝、落合恵子（以上元事務局長）

現財団役員等： 平田 正（理事長）、高橋 充（常務理事）、大塚榮子、木村 光、郷 通子、別府輝彦、森 謙治（以上理事）、北原 武、長澤寛道、福山 透、三箇山俊文、三品昌美（以上評議員）、山根久和、西山 真、佐藤隆一郎、高橋淑子（以上選考委員）

出捐会社関係： 奈良 高、伊藤菁莪、花井陳雄、河合弘行、加藤慎一郎、市村通朗、原 孝博、小泉聡司、中村俊也

1) 理事長挨拶

理事長 平田 正

加藤記念バイオサイエンス研究振興財団・理事長の平田正でございます。本日は皆様にはお忙しい中、第22回加藤記念研究助成贈呈式にご出席賜り、誠に有り難うございます。

本日は来賓といたしまして、主務官庁の文部科学省ライフサイエンス課長・石井康彦様、出捐会社である協和発酵キリン株式会社・代表取締役社長の松田譲様にご臨席賜りました。また、財団選考委員に本年度ご就任いただきましたお二人の先生に、特別講演をお願いいたしました。心から御礼申し上げます。

当財団は、旧協和発酵工業株式会社の創立者である故加藤辨三郎博士の「バイオサイエンスの振興を通じて社会の発展に寄与したい」という遺志を実現すべく、1988年に設立された公益法人でございます。

当財団は、「真に独創的な研究は、必ずしも多額の研究費を伴う環境からではなく、むしろ個性的な研究者の自由な発想と粘り強い研鑽から生み出されるものである」との認識に立ち、優れた若き研究者に対し、いささかではあります。が支援したいと考えている次第でございます。

昨今の経済情勢には大変厳しいものがありますが、幸い当財団は、出捐会社の協和発酵キリン株式会社から継続して大きな財政支援をいただいております。また本年度は、一般個人の方から多額の寄附を頂戴しました。当財団の活動が広く支持いただいていることの証でもあり、誠に有り難く、かつ心強い思いでございます。

さて本年度の事業ですが、多くの皆様に支えられ、予定通り進めることができました。財団最大の事業で本日贈呈いたします「研究助成」

ですが、昨年と同様、メディカルサイエンスとバイオテクノロジーの2分野に加え、「癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究」を指定研究として、合計3つの区分で募集致しました。お陰様で本年度も多数の応募をいただきました。合計251名の応募に対し、25名の皆様に、総額5,000万円の助成金と記念の盾を贈呈いたします。

記念の盾には、加藤辨三郎博士が揮毫した「生かされている」という書が刻まれています。大変奥の深い言葉ですが、謙虚さや感謝の気持ちの大切さを教えられるものでございます。本日研究助成を受ける皆様にとって何かの示唆にいただければ幸いです。

今後皆様方の研究が、更なる創意と情熱によりまして、わが国のバイオサイエンスおよび産業の発展、ひいては地球規模の諸問題の解決に貢献されることを祈念致すものでございます。

本年度の選考に当たられました選考委員長の山根久和先生はじめ20名の選考委員の諸先生に、心から感謝申し上げます。

現在、我が国では、公益法人制度改革が進められております。当財団といたしましては、この2月に新公益法人移行に向けて申請を終了したところでございます。新制度移行後におきましても、これまで以上に、バイオサイエンス振興に向けて努力する所存でございます。

本日も臨席の皆様には、今後ともより一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

どうも有り難うございました。

2) 選考委員長挨拶

選考委員長 山根 久和

選考委員長を務めております東京大学生物生産工学研究センターの山根でございます。本日、研究助成金の贈呈を受けられる25名の皆様に対し、心からお慶び申し上げます。

加藤記念研究助成の応募数は、昨年まで数年にわたり急激に増加しておりましたが、本年度も昨年とほぼ同等の応募があり、メディカルサイエンス分野136件、バイオテクノロジー分野96件、一昨年度から始まりました指定研究区分「癌分野における基礎研究から臨床への橋渡し研究」が19件で、応募総数は、251件となりました。女性研究者からの応募も、昨年対比では1件の減少となるものの56件に達しています。

さて、選考にあたりましては、加藤記念研究助成の基本方針である「独創的、先駆的研究を行う若手研究者を幅広く支援する」ことを念頭におくとともに、研究室の立ち上げ状況、女性研究者支援、地域性、他の研究助成との重複等についても考慮致しました。それぞれの申請について、各分野の専門の選考委員が複数で書面

審査を行い、次に選考委員が一堂に会して十分な審議を行いました。その結果、研究助成として、メディカルサイエンス分野12件、バイオテクノロジー分野10件、指定研究助成3件の合計25件を採択致しました。競争率は、今回も昨年と同様、全体では10倍の難関となりました。

今回の応募の中には多数の優れた研究課題が含まれていましたが、本日受賞された皆様の研究課題は、独創性・先駆性において特に高い評価を得たものでございます。研究助成を受けられる皆様には、助成金を有効に使用して研究目標を達成し、我が国のバイオサイエンスの更なる発展に貢献していただきたいと思っております。

長年にわたってバイオサイエンス分野における若手研究者の発掘・育成に尽力されてきた加藤記念バイオサイエンス研究振興財団にあらためて敬意を表しますとともに、助成を受けられる皆様のご研究の一層の発展を祈念しまして、選考経過報告とさせていただきます。

3) 特別講演

3-1) 動物の発生にみる細胞の奇妙なふるまい

～私達の皮膚にみられる細胞間コミュニケーション～

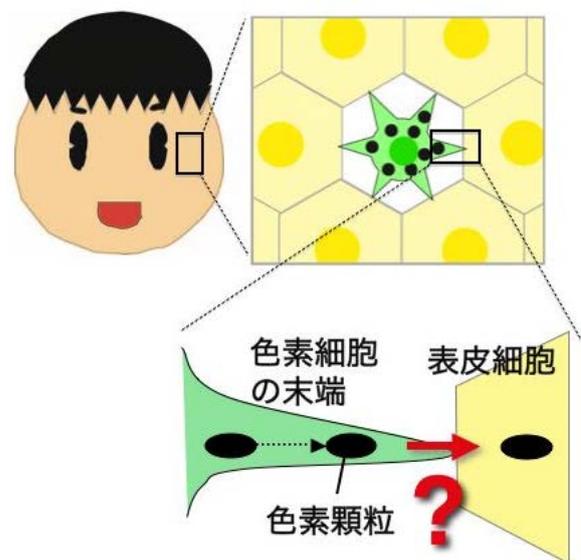
奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授 高橋 淑子

日焼けをすると肌が黒くなります。これは、皮膚に存在する色素細胞の仕業です。色素細胞の中では、まずメラニンが合成されます。哺乳類や鳥類では、合成されたメラニンは色素顆粒となり、最終的に隣の表皮細胞へと輸送されます(図)。実際に私達の肌全体が色づいてみえるのは、表皮細胞へと輸送されたメラニンのためです。メラニン沈着は、美容界では嫌われ役ですが、外界の紫外線から私達の体を守るために非常に重要なものであり、このことはオーストラリアにおける白人の皮膚癌発症率が高い例からもわかります。

皮膚色素化の研究は長い歴史をもっています。色素細胞におけるメラニン合成や、色素顆粒が細胞の末端まで輸送されるしくみに関しては、比較的良好に研究されてきました。ところがこの後のステップ、つまり色素細胞→表皮細胞へと細胞間を超えて輸送されるしくみに関しては、これまで諸説あるものの、決定的な証拠はありませんでした。

近年私達は、GFP 標識された色素細胞の挙動を、発生中の胚内で直接的に可視化することに成功しました。ニワトリ胚を用いた局所的な遺伝子導入操作法と、高解像度ライブイメージング法とを組み合わせ解析したところ、皮膚組織内の色素細胞が、以前報告されていたよりもはるかにダイナミックな形態変化を起こすこと、またこれらの形態変化が発生分化依存的に起こることなどがわかってきました(ムービー紹介の予定)。細胞膜のダイナミズムが、色素顆粒の細胞間輸送に大きく関わっているようです。

これらの観察結果をふまえ、胚内の細胞がみせる「驚愕の振る舞い」についてディスカッションする予定です。



(参考文献)

- Yokota, Y., Saito, D., Tadokoro, Y. and ***Takahashi, Y.** Genomically integrated transgenes are stably and conditionally expressed in neural crest cell-specific lineages. *Dev. Biol.*, in press
- Watanabe, T. and ***Takahashi, Y.** (2010) Tissue morphogenesis coupled with cell shape changes. *Current Opinion in Genetics and Development*. 4: 443-447
- Watanabe, T., Sato, Y., Saito, D., Tadokoro, R., and ***Takahashi, Y.** (2009) Ephrin B2 coordinates the formation of a morphological boundary and cell epithelialization during somite segmentation. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA*, 106(18) p7467-7472
- Sato, Y., Watanabe, T., Saito, D., Takahashi, T., Yoshida, S., Kohyama, J., Ohata, E., Okano, H. and ***Takahashi, Y.** (2008) Notch mediates the segmental specification of angioblasts in somites and their directed migration toward the dorsal aorta in avian embryos. *Developmental Cell*, 14: 890-901
- Sato, T., Kasai, T., Nakagawa, S., Tanabe, J., Watanabe, T., Kawakami, K., and ***Takahashi, Y.** (2007) Stable integration and conditional expression of electroporated transgenes in chicken embryos. *Dev. Biol.*, 305, 616-624

Tadokoro R., Sugio, M., Kutsuna, J., Tochinai, S., and ***Takahashi, Y.** (2006) Early segregation of germ and somatic lineages during gonadal regeneration in the annelid, *Enchytraeus japonensis*. *Current Biology*, 16, 1012-1017

Nakaya, Y., Kuroda, S., Katagiri, Y., Kaibuchi, K. and ***Takahashi, Y.** (2004) Mesenchymal-epithelial transition during somitic segmentation is regulated by differential roles of Cdc42 and Rac1. *Developmental Cell*, 7: 425-438

3-2) コレステロール代謝制御研究から見えてきたこと

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 佐藤 隆一郎

コレステロールはアセチル CoA から 20 数段階の酵素反応を介して合成される。すべての細胞にこの合成経路は存在するが、肝臓が主たる合成臓器であり、肝臓はリポタンパク質を分泌し、抹消組織細胞へコレステロールを分配している。リポタンパク質を分泌する臓器は、小腸と肝臓に限られており、コア脂質をリン脂質が取り囲む形の粒子上に Apolipoprotein B(Apo B₄₈が小腸で、Apo B₁₀₀が肝臓で合成・分泌される)が局在する。Apo B タンパク質は他の分泌タンパク質と異なり、タンパク質単体では分泌されることなく、必ず脂質を伴いリポタンパク質の形で分泌される。小腸においては、食事から吸収した脂質をキロミクロンとして分泌する。一般的に食事でのコレステロール量と野菜等に由来する植物ステロール量はほぼ同レベルであるにもかかわらず、植物ステロールはほとんど血中へと輸送されない。コレステロールにメチル基もしくはエチル基が付加されただけの、コレステロールと極めて構造の酷似した植物ステロールを生体は認識、識別し、排除している。このシステムを握っているのが ABC トランスポーター2 量体の ABCG5/G8 であり、コレステロールは小腸での吸収過程で厳格な選別作業をパスしてキロミクロンへと取り込まれる。

Apo B とコレステロールの肝細胞からの分泌を pulse-chase 実験を行い解析したところ、Apo B は細胞内で合成された後にその 60%程度しか培地中へと分泌されないことがわかった。細胞内での分解を想定し、Brefeldin A で小胞体-ゴル

ジ輸送を阻害すると、Apo B は他の分泌タンパク質と異なり、早い半減期で消失した⁽¹⁾。小胞体品質管理による ERAD という概念が確立する以前に、Apo B は小胞体分解を受けるタンパク質として認知されることとなった。コレステロール合成の律速酵素であり、小胞体膜タンパク質である HMG CoA 還元酵素は、細胞内コレステロールの増加に伴い、同じく小胞体分解を受けることが知られていた。さらに、HMG CoA 還元酵素は AMPK (AMP-activated kinase)によりリン酸化を受け酵素活性が抑制されることが明らかにされたことから、コレステロール依存的分解と AMPK 依存的活性抑制の相互関連に着目し、解析を進めた。その結果、この二つの機構は互いに独立した調節系であることが明らかになった⁽²⁾。さらにその後の研究から、本酵素の膜貫通領域に Sterol-sensing domain(SSD)が存在し、そこに Lanosterol が結合することによる構造変化を介して、別の小胞体膜タンパク質 INSIG(Insulin-induced gene)が結合し、続いてユビキチンリガーゼをリクルートし、プロテアソームによる分解の進行することが明らかにされている⁽³⁾。

コレステロール合成経路は、上述した HMG CoA 還元酵素の分解以外に、転写レベルで一連の合成酵素遺伝子発現が制御されており、この制御機構の担当転写因子を培養細胞核抽出画分より精製、クローニングする研究を行なった^(4,5)。本転写因子、SREBP は 2ヶ所の膜貫通領域を介して小胞体膜上に局在し、細胞内コレステロー

ルが低下すると、小胞体からゴルジへと輸送され、N 末端領域が細胞質へと切り出され、核内で転写因子として機能する。核内で SREBP は転写因子として機能した後、ユビキチン-プロテアソーム分解系により速やかに消失する⁽⁶⁾。小胞体膜上では、SREBP は小胞体膜タンパク質 SCAP(SREBP cleavage-activating protein, SSD を持つ) と 2 量体を形成し、これに HMG CoA 還元酵素の分解に関与する INSIG が結合し、その結果この複合体は小胞体膜上に留まる(つまり転写を負に制御する)こととなる⁽⁷⁾。さらに最近、我々は想定 12 回膜貫通小胞体膜タンパク質 TRC8(Translocation in renal cancer from chromosome 8)が SSD を介して自らの半減期を制御すると同時に、SREBP/SCAP 2 量体に結合し、SREBP の活性化を抑制する機構を明らかにした⁽⁸⁾。小胞体膜にはコレステロールのエステル化を触媒する ACAT(Acyl CoA:cholesterol

acyltransferase)も局在し、遊離コレステロールが過剰にならないように制御している。このように小胞体膜上は、コレステロール代謝制御のホットスポットであり、このミクロな空間で精妙かつ厳密な調節機構が作動している。

- (1) Sato, R., Imanaka, T., Takatsuki, A. and Takano, T. (1990) *J. Biol. Chem.* 265, 11880-11884.
- (2) Sato, R., Goldstein, J.L. and Brown, M.S. (1993) *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 90, 9261-9265.
- (3) Goldstein, J.L., DeBose-Boyd, R.A. and Brown, M.S. (2006) *Cell* 124, 35-46.
- (4) Wang, X., Sato, R., Brown, M.S., Hua, X. and Goldstein, J.L. (1994) *Cell* 77, 53-62.
- (5) Sato, R., Yang, J., Wang, X., Evans, M.J., Ho, Y.K., Goldstein, J.L. and Brown, M.S. (1994) *J. Biol. Chem.* 269, 17267-17273.
- (6) Hirano, Y., Yoshida, M., Shimizu, M. and Sato, R. (2001) *J. Biol. Chem.* 276, 36431-36437.
- (7) Brown, M.S. and Goldstein, J.L. (2009) *J. Lipid Res.* 50, S15-27.
- (8) Irisawa, M., Inoue, J., Ozawa, N., Mori, K. and Sato, R. (2009) *J. Biol. Chem.* 284, 28995-29004.

4. 理事会・評議員会等

2 回の定例理事会・評議員会、2 回の臨時理事会、及び最初の評議員選定委員会を下記のとおり開催し、全ての議案は承認された。

1) 第 44 回理事会・第 44 回評議員会

日程	平成 22 年 6 月 4 日 (金)
場所	九段会館
出席者	理事 11 名、評議員 11 名 (それぞれ委任状出席含む)、監事 2 名
主な議題	①平成 21 年度事業状況報告書及び収支決算報告 ②会計基準の変更 ③新定款 (案) ④役員及び評議員の報酬等に関する規程 (案) ⑤最初の評議員選定委員の選任

2) 臨時理事会 (平成 22 年 9 月 8 日)

日程	平成 22 年 9 月 8 日 (水)
場所	協和発酵キリン株式会社本社
出席者	理事 13 名 (委任状出席含む)、監事 2 名

- 主な議題 ①寄附金等取扱規程の制定
②寄附の受入

3) 臨時理事会 (平成 22 年 12 月 10 日)

- 日程 平成 22 年 12 月 10 日 (金)
場所 協和発酵キリン株式会社東京リサーチパーク
出席者 理事 13 名 (書面表決 11 名含む)
主な議題 ①最初の評議員候補者の選出

4) 最初の評議員選定委員会

- 日程 平成 23 年 1 月 7 日 (金)
場所 協和発酵キリン株式会社東京リサーチパーク
出席者 委員 5 名
主な議題 ①最初の評議員選任

5) 第 45 回理事会・第 45 回評議員会

- 日程 平成 23 年 2 月 4 日 (金)
場所 如水会館
出席者 理事 13 名、評議員 11 名 (それぞれ委任状出席含む)、監事 2 名
主な議題 ①第 22 回研究助成対象者の選出
②第 22 回学会等開催助成対象の選出
③理事・監事・評議員の改選
④理事長及び常務理事の選任
⑤名誉理事称号の贈呈
⑥平成 23 年～26 年度選考委員の選出
⑦平成 23 年度事業計画及び収支予算
⑧新定款案の変更
⑨役員及び評議員の報酬等に関する規程
⑩新公益法人制度移行申請内容

5. 管理業務

1) 会計基準の変更

今期より会計基準を、従来の平成 16 年会計基準に代わり、平成 20 年会計基準 (平成 20 年 4 月 11 日 内閣府公益認定等委員会) に変更した。公益認定申請においては 20 年基準に従って財務書類を作成しなければならない。

当初の平成 22 年度予算は 16 年基準で承認 (平成 22 年 2 月の第 43 回理事会・評議員会) を得ていたことから、実質同一内容のものを 4 月に遡って 20 年基準に組替え、第 44 回理事会・評議員会 (平

成 22 年 6 月) において承認を得た。

2) 研究助成報告様式の見直し

今回から研究助成終了時に研究報告書とともに簡単な会計報告書の提出を求めることとした。また今後の助成プログラムや財団活動の見直しの参考とするため、研究助成報告書提出にあわせてアンケートを依頼した。集計結果は今後の活動に生かす予定である。

3) 寄附金受入

4 月に協和発酵キリン株式会社より事業費及び運営費として 7,200 万円の寄附を受領した。

9 月に匿名個人より、基本財産として非上場株式 1 銘柄の寄附を受領した。

4) 事務局トピックス

新公益法人移行準備及び日常業務レベルアップのため、主要大学・研究機関、生命科学分野の助成財団、助成財団センターとの交流・意見交換を継続して行なった。研究機関窓口として、今期は慶応大学研究支援センター、早稲田大学研究推進部、理化学研究所外部資金室を訪問し、意見交換を行なった。

財団活動の紹介と助成プログラム見直しの基礎とするため、過去の助成実績を解析した(継続中)。

財団の情報発信機能向上のため、財団 HP を充実させた(内容、更新頻度)。

6. 人の異動

1) 理事・評議員 (敬称略)

・任期満了により退任(平成 23 年 3 月 31 日付)

折茂肇、香川靖雄、高久史磨、別府輝彦、森謙治(以上理事)

勝木元也、小川秀興、長田重一、西川伸一、尾崎明夫(以上評議員)

2) 選考委員 (敬称略)

・平成 22 年度就任新選考委員(平成 22 年 4 月 1 日付)

佐藤隆一郎、高橋淑子

・任期満了により退任(平成 23 年 3 月 31 日付)

山根久和、一條秀憲、加藤茂明、阪井康能、清木元治、畠山昌則

第22回 加藤記念研究助成贈呈式



平田 正 理事長



山根 久和
選考委員長



石井 康彦
文部科学省研究振興局
ライフサイエンス課長



松田 譲
協和発酵キリン(株)
代表取締役社長



第 22 回 加藤記念研究助成受領者と財団関係者

特別講演



高橋 淑子
奈良先端科学技術大学院大学 教授

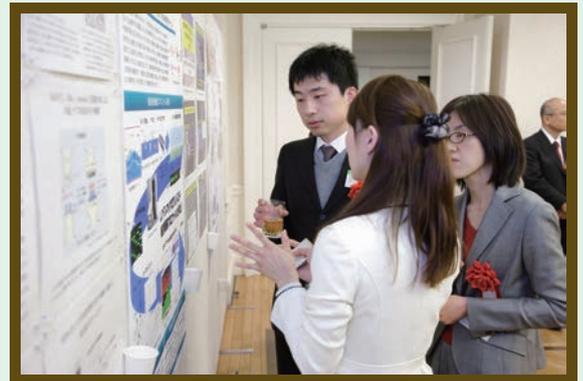


佐藤 隆一郎
東京大学 教授

ポスターセッションと祝賀会



三品 昌美 評議員



第22回加藤記念研究助成贈呈式 式次第

平成23年3月4日(金) 15:00～18:30 如水会館

1. 贈呈式

1) 理事長挨拶

2) 選考経過報告

選考委員長 東京大学教授 山根 久和

3) 記念盾贈呈

4) 来賓祝辞

① 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課 課長

石井 康彦

② 協和発酵キリン(株) 代表取締役社長

松田 譲

2. 特別講演会

① 奈良先端科学技術大学院大学教授

高橋 淑子

② 東京大学教授

佐藤 隆一郎

3. 研究計画発表会 (ポスターセッション)

4. 祝賀会

第1回 加藤記念研究助成報告・交流会



式次第

平成22年10月22日(金)

14:00～18:30

KKRホテル東京

1. 開会挨拶 理事長
2. 研究成果報告会(口頭発表)
3. ポスターセッション・交流会



7. 平成 22 年度決算報告

貸借対照表

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現金預金			
現金	52,510	51,547	963
普通預金	20,907,079	23,126,506	▲2,219,427
現金預金合計	20,959,589	23,178,053	▲2,218,464
流動資産合計	20,959,589	23,178,053	▲2,218,464
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	0	50,000,000	▲50,000,000
定期預金	306,000,000	256,000,000	50,000,000
投資有価証券	477,655,510	400,000,000	77,655,510
基本財産合計	783,655,510	706,000,000	77,655,510
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	402,500	507,500	▲105,000
その他固定資産合計	402,500	507,500	▲105,000
固定資産合計	784,058,010	706,507,500	77,550,510
資産合計	805,017,599	729,685,553	75,332,046
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	17,007	64,228	▲47,221
流動負債合計	17,007	64,228	▲47,221
負債合計	17,007	64,228	▲47,221
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄附金	706,000,000	706,000,000	0
受贈投資有価証券	77,655,510	0	77,655,510
指定正味財産合計	783,655,510	706,000,000	77,655,510
(うち基本財産への充当額)	(783,655,510)	(706,000,000)	(77,655,510)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	21,345,082	23,621,325	▲2,276,243
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	805,000,592	729,621,325	75,379,267
負債及び正味財産合計	805,017,599	729,685,553	75,332,046

正味財産増減計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産受取利息	5,721,250	5,731,588	▲10,338
受取寄付金	72,000,000	76,000,000	▲4,000,000
運用財産受取利息	119,525	75,741	43,784
経常収益計	77,840,775	81,807,329	▲3,966,554
(2) 経常費用			
事業費			
支払助成金	61,700,000	59,050,000	2,650,000
研究助成	50,000,000	50,000,000	0
国際交流助成	7,700,000	7,050,000	650,000
学会等開催助成	4,000,000	2,000,000	2,000,000
会議費	2,938,353	2,247,407	690,946
諸謝金	4,059,980	3,767,298	292,682
旅費交通費	2,157,824	1,841,995	315,829
印刷製本費	315,100	2,984,557	▲2,669,457
消耗品費	664,334	620,445	43,889
通信運搬費	103,679	190,660	▲86,981
雑費	630	5,595	▲4,965
事業費計	71,939,900	70,707,957	1,231,943
管理費			
人件費	3,600,000	3,600,000	0
会議費	896,072	977,257	▲81,185
旅費交通費	2,309,630	2,273,263	36,367
印刷製本費	334,835	400,029	▲65,194
消耗品費	119,338	333,545	▲214,207
通信運搬費	218,253	235,010	▲16,757
会費	385,000	303,000	82,000
什器備品費	0	0	0
減価償却費	105,000	17,500	87,500
雑費	208,990	280,593	▲71,603
管理費計	8,177,118	8,420,197	▲243,079
経常費用計	80,117,018	79,128,154	988,864
当期経常増減額	▲2,276,243	2,679,175	▲4,955,418
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲2,276,243	2,679,175	▲4,955,418
一般正味財産期首残高	23,621,325	20,942,150	2,679,175
一般正味財産期末残高	21,345,082	23,621,325	▲2,276,243
II 指定正味財産増減の部			
固定資産受贈益			
投資有価証券受贈益	77,655,510	0	77,655,510
固定資産受贈益計	77,655,510	0	77,655,510
当期指定正味財産増減額	77,655,510	0	77,655,510
指定正味財産期首残高	706,000,000	706,000,000	0
指定正味財産期末残高	783,655,510	706,000,000	77,655,510
III 正味財産期末残高	805,000,592	729,621,325	75,379,267

財 産 目 録

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産) 現金預金	現 金	手元保管	運転資金として	52,510
	普通預金	みずほ銀行 丸之内支店	運転資金として	20,907,079
				3,647,563
		みずほ銀行 相模大野支店	運転資金として	13,381,192
	三菱東京UFJ銀行 新橋支店	運転資金として	3,878,324	
現金預金合計				20,959,589
流動資産合計				20,959,589
(固定資産) 基本財産	定期預金	三菱UFJ信託銀行 本店	満期保有目的で保有し、 利息を公益目的事業及 び管理運営の財源とし ている。	306,000,000
				206,000,000
	投資有価証券	三菱東京UFJ銀行 新橋支店	満期保有目的で保有し、 利息を公益目的事業及 び管理運営の財源とし ている。	100,000,000
		農林中央金庫債券	満期保有目的で保有し、 利息を公益目的事業及 び管理運営の財源とし ている。	477,655,510
		400,000,000		
非上場株式 1 銘柄		寄附により受け入れた 株式であり、配当等を公 益目的事業及び管理運 営の財源としている。	77,655,510	
基本財産合計				783,655,510
その他 固定資産	ソフトウェア	会計ソフト	管理運営の用に供して いる。	402,500
	その他固定資産合計			
固定資産合計				784,058,010
資産合計				805,017,599
(流動負債)	未払金	消耗品、通信運搬費に 対する未払額	管理運営に供する消耗 品、通信運搬費の未払分	17,007
流動負債合計				17,007
負債合計				17,007
正味財産				805,000,592

Ⅱ. 平成 23 年度事業計画

(平成 23 年 4 月 1 日より平成 24 年 3 月 31 日まで)

1. 基本方針

- ・ 平成 23 年度は前年度に引き続き、バイオサイエンス分野において 3 つの助成事業（研究助成、国際交流助成、学会等開催助成）を実施する。募集要項の一部見直しを含めて更なる充実を図る。
- ・ 関係者間の情報交流を図る目的で、昨年度初めて実施した助成研究報告会を今年度も開催する。
- ・ 年度途中で公益財団法人へ移行する。移行後は法律や新定款に従い、新公益法人に相応しい運営を行なう。
- ・ 新公益法人への移行に併せ、ホームページのリニューアルを行なうなどより一層の広報強化を行なう。

2. 事業の内容

(1) 第 23 回研究助成

- 助成の概要 : バイオサイエンス分野における有能な若手研究者を発掘し、その創造的かつ先駆的研究を支援することを目的とする。昨年までの指定研究枠を廃し、メディカルサイエンス分野枠を増やす。また募集締切を 1 ヶ月遅らせ、応募し易いようにする。
- 助成対象者 : メディカルサイエンス分野およびバイオテクノロジー分野の研究者。
- 助成金額 : 総額 5,000 万円（1 件 200 万円、メディカルサイエンス分野 15 件、バイオテクノロジー分野 10 件）
- 募集方法 : 公募。申請者の所属する機関の長からの推薦を要する。
- 応募期間 : 平成 23 年 7 月上旬～9 月 30 日
- 選考 : 選考委員会により審査し、その答申に基づき理事会によって正式決定する。

(2) 第 23 回国際交流助成

- 助成の概要 : 若い有意な研究者の創造的研究を支援するため、研究者間の国際交流を推進することを目的とし、海外の学会等で発表する際の渡航費等を助成する。
- 助成対象者 : 海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等に発表予定の国内の研究者。
- 助成金額 : 上期下期 総額 750 万円
- 募集方法 : 公募。申請者の所属する研究機関の上長の推薦を要する。
- 応募期間 : 上期 平成 23 年 1 月～2 月末（4 月～9 月までの学会対象）（済）
下期 平成 23 年 7 月上旬～8 月末（10 月～翌年 3 月までの学会対象）
- 選考 : 選考委員により審査し、理事長が決裁する。

(3) 第23回学会等開催助成

- 助成の概要 : 比較的小規模のバイオサイエンス関連学会の開催支援を目的とする。
- 助成対象 : 国内で開かれるバイオサイエンス分野の学会等
- 助成金額 : 総額 200 万円 (1 件 20 万円程度、10 件程度)
- 募集方法 : 公募。理事又は評議員の推薦を要する。
- 応募期間 : 平成 22 年 10 月初旬～10 月 31 日
- 選考 : 選考委員により審査し、その答申に基づき理事会によって正式決定する。

(4) 第2回研究助成報告・交流会

第 20 回研究助成者 (研究助成期間 : 平成 21 年 4 月から平成 23 年 3 月まで) を対象に、第 2 回助成研究報告会を平成 23 年 11 月に開催し、研究者・関係者間の交流を図りバイオサイエンス分野の発展を期する。

(5) 第23回加藤記念研究助成贈呈式

研究助成贈呈式を平成 24 年 3 月 2 日 (金) に行なう。助成金受領者による研究計画発表、特別講演及び祝賀会を併せて行い、関係者間の情報交流も図る。

(6) 財団年報 (第 12 号) 発行

当財団の事業活動を広く社会に普及するとともに、バイオサイエンスの推進・啓発に資するべく、平成 22 年度の事業及び成果をまとめた財団年報 (第 12 号) を 8 月頃に発行する。今回は公益法人移行に応じた内容とする。一部は財団 HP にも掲載する。

(7) 公益財団法人への移行

平成 23 年 4 月以降、公益財団法人への移行認可を取得する予定である。移行登記後は速やかに臨時理事会と評議員会を開催し、法律及び新定款に則った運営を行なう。

3. 平成 23 年度事業予算

平成 23 年度 正味財産増減予算書

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日

(単位：円)

科 目	H23 予算	H22 予算	差異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	5,600,000	5,600,000	0
② 受取寄付金			
受取運用財産	72,000,000	72,000,000	0
③ 雑収益			
運用財産受取利息	70,000	70,000	0
経常収益計	77,670,000	77,670,000	0
(2) 経常費用			
① 事業費	70,590,000	71,000,000	△ 410,000
支払助成金	59,500,000	59,500,000	0
研究助成	(50,000,000)	(50,000,000)	(0)
国際交流助成	(7,500,000)	(7,500,000)	(0)
学会等開催助成	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
会議費	3,100,000	3,050,000	50,000
諸謝金	4,100,000	3,850,000	250,000
旅費交通費	2,500,000	2,900,000	△ 400,000
印刷製本費	350,000	500,000	△ 150,000
消耗品費	700,000	700,000	0
通信運搬費	190,000	150,000	40,000
雑費	150,000	350,000	△ 200,000
② 管理費	9,605,000	9,905,000	△ 300,000
人件費	3,600,000	3,600,000	0
会議費	1,300,000	1,500,000	△ 200,000
旅費交通費	2,500,000	3,000,000	△ 500,000
印刷製本費	450,000	400,000	50,000
消耗品費	300,000	300,000	0
通信運搬費	250,000	250,000	0
会費	350,000	300,000	50,000
什器備品費	200,000	200,000	0
減価償却費	105,000	105,000	0
雑費	550,000	250,000	300,000
経常費用計	80,195,000	80,905,000	△ 710,000
当期経常増減額	△ 2,525,000	△ 3,235,000	710,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,525,000	△ 3,235,000	710,000
一般正味財産期首残高	20,496,325	23,621,325	△ 3,125,000
一般正味財産期末残高	17,971,325	20,386,325	△ 2,415,000
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	783,655,510	706,000,000	77,655,510
指定正味財産期末残高	783,655,510	706,000,000	77,655,510
III 正味財産期末残高	801,626,835	726,386,325	75,240,510

4. 平成23年度財団役員等

理事

(平成23年4月1日現在)

理事長 (非常勤)	平田 正	(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 理事長
常務理事 (常勤)	高橋 充	(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 常務理事
理事 (非常勤)	大村 智	(学)北里研究所名誉理事長 北里大学名誉教授
	垣添 忠生	(公財)日本対がん協会会長 国立がんセンター元総長
	北原 武	帝京平成大学薬学部教授 東京大学名誉教授 北里大学客員教授
	木村 光	京都大学名誉教授 (株)グリーンバイオ代表取締役
	郷 通子	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部 特別客員教授
	谷口 維紹	東京大学大学院医学系研究科教授
	長澤 寛道	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授
	三品 昌美	東京大学大学院 医学系研究科 教授

監事

監事 (非常勤)	伊藤 醇	公認会計士
	樋口 節夫	新日本有限責任監査法人 監査一部シニアパートナー 公認会計士

評議員

監事 (非常勤)	江崎 信芳	京都大学副学長・理事
	大塚 榮子	北海道大学名誉教授 産業技術総合研究所名誉フェロー
	金澤 一郎	国際医療福祉大学大学院長・教授 日本学術会議会長
	岸本 忠三	大阪大学大学院生命機能研究科教授 千里ライフサイエンス振興財団 理事長
	小泉 聡司	協和発酵バイオ(株) バイオプロセス開発センター センター長
	五味 勝也	東北大学大学院農学研究科教授
	高津 聖志	富山県薬事研究所所長 富山大学大学院医学薬学研究部客員教授
	福山 透	東京大学大学院 薬学系研究科教授
	三箇山 俊文	協和発酵キリン(株) 執行役員

	宮島 篤	東京大学分子細胞生物研究所教授
	山本 一彦	東京大学大学院医学系研究科教授 東京大学医学教育国際協力研究センター センター長

名誉理事

名誉理事 (非常勤)	池原 森男	大阪大学名誉教授
	伊藤 正男	東京大学名誉教授 (独)理化学研究所脳科学総合研究センター 特別顧問
	井上 一郎	東京工業大学名誉教授
	岡田 吉美	東京大学名誉教授
	小田 鈎一郎	元 東京大学 医科学研究所教授
	折茂 肇	医療法人恵雄会 介護老人保健施設 ケアハイツ川越 最高顧問・施設長 (財)骨粗鬆症財団 理事長
	香川 靖雄	女子栄養大学副学長・栄養科学研究所長 自治医科大学 名誉教授
	勝木 元也	自然科学研究機構理事 基礎生物学研究所 名誉教授 日本学術振興会学術システム研究センター 副所長
	榎 佳之	豊橋技術科学大学 学長
	清水 喜八郎	光仁会病院顧問
	菅野 晴夫	(財)癌研究会 顧問
	高久 史麿	自治医科大学学長 東京大学名誉教授
	中嶋 暉躬	星薬科大学学長 東京大学名誉教授
	早石 修	(財)大阪バイオサイエンス研究所理事長 京都大学名誉教授
	藤巻 正生	東京大学名誉教授 お茶の水女子大学名誉教授 (財)食生活研究会理事長
	別府 輝彦	東京大学名誉教授
	松井 正直	東京大学名誉教授
	森 謙治	東京大学名誉教授
	柳田 敏雄	大阪大学大学院 生命機能研究科特任教授 (独)情報通信研究機構 特別招聘研究員 理化学研究所 センター長
山田 秀明	京都大学名誉教授 富山県立大学名誉教授	

選考委員

選考委員長 (非常勤)	岩坪 威	東京大学 大学院医学系研究科 教授
選考副委員長 (非常勤)	浅見 忠男	東京大学 大学院農学生命科学研究科教授
選考委員 (非常勤)	跡見 晴幸	京都大学 大学院工学研究科教授
	長田 裕之	理化学研究所 基幹研究所 ケミカルバイオロジー研究基盤施設施設長
	後藤 由季子	東京大学 分子細胞生物学研究所教授
	坂口 志文	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 教授
	佐藤 隆一郎	東京大学 大学院農学生命科学研究科教授
	佐谷 秀行	慶應義塾大学 医学部医学研究科教授
	鈴木 啓介	東京工業大学 大学院理工学研究科教授
	高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授
	戸井 雅和	京都大学大学院 医学研究科 教授
	中村 春木	大阪大学 蛋白質研究所教授 附属プロテオミクス総合研究センター長
	中山 亨	東北大学 大学院工学研究科教授
	西山 真	東京大学 生物生産工学研究センター教授
	畠 清彦	(財)癌研究会・有明病院 化学療法科兼血液腫瘍科部長
	間野 博行	自治医科大学 ゲノム機能研究部教授 東京大学大学院 医学系研究科 特任教授
	三浦 正幸	東京大学 大学院薬学系研究科教授
三森 経世	京都大学 大学院医学研究科教授	
村上 善則	東京大学 医科学研究所教授	

Ⅲ. 公益財団法人移行の経緯

1. 概要

我が国の公益法人制度は、民間活力の向上による公益活動の増進と一部の問題ある公益法人の見直しが大きな課題となっていた。これに対処するため、いわゆる公益法人制度改革3法が平成20年12月1日に施行され、公益法人制度が大きく変わることになった。この結果、従来の財団法人は、5年以内に公益財団法人又は一般財団法人への移行が義務付けられることになった。

当財団は、2年近い準備期間を経て平成23年2月に移行申請し、平成23年6月29日に認定を得て、同年7月1日付で「公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団」として新たな一步を踏み出した。

2. 公益認定申請の準備

(1) 制度改革への対応と事務局準備

公益法人制度改革3法が平成18年5月に成立（施行は平成20年12月）したことを受け、5年以内に公益財団法人又は一般財団法人への移行を検討する必要性が生じた。前者は後者に比べてより税制面で優遇され、一方、後者は前者に比べて運営の自由度が高いことが特徴である。

当財団は、従来から「特定公益増進法人」に認定されており、また運営の自由度を考慮すべき収益事業は行っていないことから、税制面で優遇される公益財団を目指すことになった。時期としては、平成20年度は財団創立20周年に当たり、平成21年度前半まで記念行事（記念式典・記念誌発刊）が控えていたことから、本格的な作業は平成21年度後半から開始することにした。

先ず平成21年2月の第41回理事会・評議員会において、1. 公益財団法人へ移行すること、2. 移行申請は平成22年度中に行うこと、の2点が決議された。また、移行後も研究助成を中心とするこれまでの事業を継続することを確認した。

理事や評議員を交えた「移行検討委員会」のような組織の立ち上げも検討したが、当財団では関係者意見を聞くための機会と時間的余裕があったことから、事務局中心に準備を進めることとした。平成22年2月の第43回理事会評議員会に申請スケジュールの提案を行い、移行申請時期は平成23年2月理事会の最終確認後、3月末までと決めた。また定款の変更案のポイント説明、先に行った選考委員アンケートの結果報告も併せて行った。

平成22年6月の第44回理事会評議員会では、この時点までにまとまった定款の変更案の承認と共に、移行後に制定予定の諸規程案の報告を行った。

(2) 関連情報の入手

準備開始時には公益認定の前例は全くなく、申請済みの財団からは公益認定等委員会の審査の厳しさだけが聞こえてくる状況であり、申請準備の負担が極めて大きくなることが危惧された。そこで情報収集を中心に活動を開始した。「公益法人協会」の関連書籍やセミナーは有益であった。ま

た「助成財団センター」からも同センター自身が公益認定申請に使用した各種書類が公開されており、参考になった。さらに「生命科学助成財団懇談会」の会合では、先行して申請した財団から資料の開示があり、また認定等委員会との交渉事例が報告され、非常に参考になった。

一方、民間コンサルタント業者のセミナー等にも参加し、専門家活用の必要性について評価した。その結果、本格的に指導を受けるにはコストが高く、また定款変更等の財団運営の根幹にかかわる見直しがまず重要なため、外注せずに独自で申請作業を行う方針とした。

(3) 公益等認定委員会事前相談

公益認定には「事前相談」というシステムがあり、定款案や申請書のチェック等、事前に公益認定等委員会の事務局に相談することが出来る。初期に申請した他財団の情報では、事前相談を行って申請書の完成度をあらかじめ上げることが重要ということであった。しかしその後、認定済みの財団からの情報が蓄積され、また認定等委員会においても本質的な問題でなければ財団のガバナンスを尊重する方針が徹底されてきた。

そこで当財団は事前相談を行わず、直接申請を行うことにした。

3. 公益認定申請内容の検討

(1) 事業区分の設定

今回の制度移行の趣旨の一つは、これを機会に各財団が自らの事業を検証し、新しい時代に相応しい事業を改めて構築することにある。また実務的には事業を「公益目的事業」「収益事業」に大別し、さらに管理業務に関する「法人会計」を計上する必要がある。そこで財団の根幹である事業の見直しを行った。

検討に当っては、役員や選考委員等から財団に対する期待や思いを理事会・評議員会、懇談の席やアンケートにより集約した。また20周年記念式典等における関係者の意見や過去の助成者からの意見、20周年記念誌の編纂を通して財団の振り返りを行った作業も役に立った。設立時の資料からは発起人の思いに改めて触れ、バイオサイエンスの振興というミッションの重要性を再確認した。

具体的検討においては、研究助成等の助成活動とバイオサイエンスの普及活動を別の事業区分とするか否かが課題となったが、複数の事業区分にする必然性はなく、一つの公益事業区分にまとめることとした。新制度では公益事業区分毎に収支相償が問われるため、区分数が少ない方が会計処理上の自由度が高くなることも理由の一つであった。なお収益事業に類する事業は、特に予定がないことから、区分として設けないこととした。

以上の結果、公益目的事業は複数に分けず、「バイオサイエンス分野の研究を奨励し科学技術の振興を図る事業」一つを行うことになった。

(2) 会計基準の変更

旧公益法人の会計基準には、いわゆる 16 年度基準と 20 年度基準の 2 種が並存していた。移行申請時には 16 年度基準のまま財団を運営していて構わないが、申請資料は 20 年度基準に従う必要がある。当財団は、移行申請前に 20 年度基準に変更すると共に科目設定も見直し、スムーズな制度移行に備えることとした。

平成 22 年度予算は 16 年度基準で承認を受けていたため、平成 22 年 6 月の第 44 回理事会評議員会に会計基準変更と科目設定変更をした組替予算を提出し、4 月に遡って適用する決議を受けた。

また平成 22 年 2 月に新公益法人会計ソフトの導入を行った。このソフトは 16 年度・20 年度の両会計基準を同時に扱うことが出来るため、会計基準変更と科目設定変更にも柔軟に対応できた。

(3) 新しい評議員・役員の選任

公益財団に移行するに当たり、新しい評議員・理事・監事を選任する必要があるが、旧法人に比べて各役割は大きく変わる。同時に新法人では、評議員会・理事会では委任状や書面による出席が認められなくなり、常に本人出席が必要となる。役員・評議員の任期に関する内規も考慮し、新制度移行を機会にメンバーの見直しを行った。

見直しに際しては、新法人移行前後でメンバー変更が生じないようにすることを心掛けた。すなわち、当財団の理事・評議員・監事の任期は全て平成 23 年 3 月末で切れることから、同年 4 月からの役員等は公益法人移行後も引き続きその任に留まることを前提に選任した。

新制度の最初の評議員については特別な方法により事前に選任しておく必要がある。まず平成 22 年 2 月の第 43 回理事会評議員会において第三者機関による選任を行うことを決議し、同年 3 月 15 日に文部科学大臣に対して「最初の評議員の選任に関する理事の定め認可申請」を行った。認可は同年 4 月 1 日付で取得した。次いで同年 6 月の第 44 回理事会評議員会において「最初の評議員選定委員」の選任を行い、同年 12 月の臨時理事会においてこの選定委員会に提案する評議員候補者の選任を行った。そして平成 23 年 1 月 7 日開催の「最初の評議員選定委員会」において、公益移行後の新評議員 11 名が選任がされた。同年 2 月の第 45 回理事会において、この移行後の新評議員は 4 月からの移行前評議員としても選任された。

新理事及び新監事に関しては、平成 23 年 2 月の第 45 回評議員会において、同年 4 月からの旧法人の下での理事（10 名）・監事（2 名）が選任され、併せて公益認定後も引き続き同職務に留まることが決議された。

事務局ではこれらの決定に基づき就任承諾書や印鑑登録証明書を取得するなど、必要な手続きを進めた。

(4) 名称の変更

旧名称は「財団法人加藤記念バイオサイエンス研究振興財団」であるが、「サイエンス」と「研究」という言葉に重複感があった。また法人名としていささか長いこともあり、新法人では「研究」の二文字を削除することにした。さらに、公益認定により「公益」の二文字が加わるため、新法人

名称は「公益財団法人加藤記念バイオサイエンス振興財団」として申請を行うこととした。

(5) 申請書作成に当たって留意した点

- ・ 基本財産は公益目的事業会計と法人会計に一律 80:20 の割合で配賦した。この割合は任意に決められるが、一度決めると簡単に変更できない。当財団の平成 21 年度、22 年度決算の支出に占める公益目的事業費の割合はそれぞれ 89.4%、89.8%であった。法人会計に余剰があれば公益目的事業会計に資金を回すことができるが、逆は許されない。そこで若干大目の 20%を法人会計に賦課することとした。
- ・ 申請に当っては申請年度の予算書と、その前期末の決算書を基に移行後の財務をシミュレーションして申請する。当財団は平成 23 年 2 月に申請したため、平成 21 年度決算と、平成 22 年度予算を基に書類を作成した。
- ・ 平成 22 年度途中で個人の篤志家より株式の寄附があり、基本財産に組み入れた。申請書においては申請時点での財産について申告する必要があるが、当然ながら 22 年度予算には当該株式は計上されていなかった。認定等委員会事務局より基本財産の増加の事情について説明を求められたが、特に修正指示等はなかった。
- ・ 旧法人では理事会等への役員出席報酬は、「日当」であるので旅費交通費としていたが、新法人では日当も報酬として扱うため、役員等の報酬額を切り出した書類を作成して提出した。この点についても公益認定等委員会事務局からの確認があったが、特に修正指示等はなかった。

4. 申請から登記まで

(1) 公益認定の申請

平成 23 年 2 月 4 日開催の第 45 回理事会・評議員会において、新定款の最終案、新公益法人の役員等人事、役員及び評議員の報酬等に関する規程を含む申請内容について承認を得た。なお議決は、「内閣府公益認定等委員会への申請・許可が必要なため、今後の作業による見直し、修正指示があった内容、本質的ではない内容の変更は理事長に一任する」との付帯条件付きで行った。

この後、事務局では電子申請に必要な書類の最終調整を行ない、平成 23 年 2 月 25 日に電子申請を行い、受理された。

(2) 申請後の動き

電子申請後一ヶ月以上経った 4 月 1 日に、認定等委員会担当者より電話とメールにより問合せがあった。質問事項は有価証券の寄附に関する経理処理、未払金の内容、役員報酬の取扱等についての「非公式」確認事項であり、4 日にメールにて事実説明を行った。

また 4 月 2 日に電話にて、旧主務官庁の文部科学省研究振興局ライフサイエンス課の担当者より、平成 20 年に実施された財団への実地検査の折に「改善を要する事項」として口頭通知が合った件について、現在までの改善状況を報告するよう依頼があった。そこで 7 日にメールにて回答した。

(3) 申請書修正

6月8日に認定等委員会担当者より、大方の内諾が得られたので登記希望日があれば知らせて欲しいとメールがあった。7月1日を希望すると返信したところ電話があり、今後の予定についての簡単な説明があった。ただし、まだ諮問は確定しておらず追加質問等がありえる、との前提であった。

9日に認定等委員会より経理に関し追加質問がメールであった。比較的説明が簡単なものであったので即座に回答した。

しかし、14日になって認定等委員会担当者より、基本財産である株式の寄附者（個人）が寄附時にその財産を公益目的事業と法人会計にどの割合で配賦するか承知しているか、との指摘があった。寄附時には配賦割合は決めていなく、そもそも寄附財産の処分は財団に一任するというのが寄附者の意向であった。従って寄附者への説明が必須とは思えなかったが、結局寄附者の了解を得た後、16日に電子申請システムから寄附申込書の修正手続きを行った。

以上で当財団としての対応は全て終了し、正式に委員会に諮問されることとなった。この間、登記に必要な書類についても司法書士事務所と打合せながら準備を行った。これらの書類は厚さ4センチ近くになった。

また新しい財団印や名刺、封筒の発注なども行った。さらにこれを機会にホームページの全面リニューアルすることになり、業者を選定して Web デザインやコンテンツの作成を行うなど、移行に付随する業務にも相当時間を費やした。

(4) 諮問から答申、そして認定

公益認定等委員会への諮問は6月17日に行われ、23日の委員会にて認定の基準に適合するとの総理大臣宛の答申が行われ、24日に認定等委員会 HP にて答申の公示がなされた。この答申を受けて、6月29日に総理大臣による当財団に対する公益認定が下りた。

認定書は、29日午後に事務局長が直接認定等委員会事務所に行って手交を受け、直後に司法書士事務所を持参した。以上で登記に必要な書類が全て整った。

5. 移行登記とその後の手続き等について

(1) 登記

登記は事務所を管轄する地域の法務局に行くこととなっており、手続きは司法書士に依頼した。手続きに必要な書類は年初から司法書士と打合せをしており、特に役員等の就任承諾書の文面は事前チェックを受けた。

以上の準備を経て、予定通り7月1日に東京法務局町田出張所に司法書士が代理人として移行申請を行った。正確には、「特例財団法人の名称変更による公益財団法人設立登記申請」「特例財団法人の名称変更による解散登記申請」「印鑑届」の3点である。

通常、移行登記が完了するまでには一週間から10日程度かかると言われていた。しかしながら法務局の都合で登記完了に時間が掛かり、登記が完了したのは7月19日になった。（登記簿上は

7月1日付登記)

(2) 移行の公表

当初は7月8日頃の登記完了と同時にリニューアルしたHPを公開し、合わせて今年度の研究助成の募集を開始する予定であった。登記が長引いたため完了連絡を待たずに7月11日に新HPの公開を行った。併せて理事、監事、評議員、選考委員、名誉理事、関連他財団、公益法人協会、助成財団センター、大学、研究機関、出捐会社等、関係各所にメール、郵便、FAX等で移行通知を行った。

(3) 登記後の手続き

7月19日の登記手続完了後、履歴事項全部証明書(登記簿謄本)を入手して7月20日に内閣府及び旧主務官庁である文部科学省に登記完了届を提出した。前者は電子申請であった。なお本来は登記(7月1日)から2週間以内に完了届の提出が義務付けられていたので、内閣府に法務局の事情で登記完了が遅れていると報告を入れた。内閣府からは、完了後速やかに提出することで了解を得た。

引き続き印鑑カードの交付を受け、税務署や金融機関等、履歴事項全部証明書等が必要な機関に名称変更届等を行った。また取引業者に対しても順次名称変更等の案内を行なった。

6. 記録

平成21年

2月 6日 第41回理事会・評議員会

平成22年度中に公益財団法人に移行認定申請をすることの承認

11月 11日 電子申請開始申込(内閣府公益行政担当)

11月 17日 電子申請開始許可

12月 16日 選考委員アンケート実施

平成22年

2月 5日 第43回理事会・評議員会

最初の評議員の選任方法の承認

移行認定申請スケジュールの承認

3月 15日 「最初の評議員の選任に関する定めについて」 認可申請(文部科学省)

4月 1日 「最初の評議員の選任に関する定めについて」 認可(文部科学省)

4月 21日 公益法人協会の相談室に電話相談(最初の評議員選定委員の資格)

6月 4日 第44回理事会・評議員会

新法人移行後の諸規程案(報告事項)

新定款案(仮案)の承認

役員及び評議員の報酬等に関する規程案の承認

		最初の評議員選定委員の選任
		会計基準を平成 20 年度基準に変更することの承認
12 月	10 日	臨時理事会
		最初の評議員候補者の選任
平成 23 年		
1 月	7 日	最初の評議員選定委員会 最初の評議員の選任
2 月	4 日	第 45 回理事会・評議員会 (旧法人としての) 理事・監事・評議員選任 (新法人としての) 理事・監事選任 平成 23 年度事業計画・予算の承認 新定款案変更の承認 理事長・常務理事の選任 (新定款附則にも明記) 役員及び評議員の報酬等に関する規程案変更の承認 新公益法人移行申請内容の承認
2 月	25 日	公益財団法人移行認定申請 (内閣総理大臣宛、電子申請)
4 月	1 日	役員変更登記 公益認定等委員会事務局から非公式問合せ (電話・メール)
4 月	2 日	文部科学省から平成 20 年実地検査指摘事項の対応について問合せ (電話)
4 月	4 日	公益認定等委員会事務局に回答 (メール)
4 月	7 日	文部科学省に回答 (メール)
6 月	8 日	公益認定等委員会事務局から登記希望日調査 (メール)
6 月	9 日	公益認定等委員会事務局から経理問合せ (メール)
6 月	14 日	公益認定等委員会事務局より寄附申込書の修正指示 (メール)
6 月	15 日	寄附者に対して寄附申込書の修正依頼 (電話とメール)
6 月	16 日	寄附者より修正寄附申込書受領 電子申請システムより申請書修正手続き (寄附申込書) 電子申請システムより申請書の確認操作
6 月	17 日	公益認定等委員会へ諮問
6 月	23 日	公益認定等委員会にて公益認定答申
6 月	24 日	公益認定答申の公示 (公益認定等委員会 HP)
6 月	29 日	総理大臣より公益認定 公益認定書の手交 (於：公益認定等委員会事務局)
7 月	1 日	旧法人解散及び公益財団法人設立登記申請 (東京法務局町田出張所)
7 月	19 日	登記手続き終了
7 月	20 日	登記完了届 (公益認定等委員会・文部科学省)
7 月	21 日	移行認定の公示 (公益認定等委員会 HP)

IV. 助成者からの報告

1. 第 20 回研究助成報告（研究期間：平成 21 年 4 月～平成 23 年 3 月）

当財団では、助成対象となった 2 年間の研究の終了時に成果報告を受けている。本年は第 20 回（平成 20 年度）研究助成金受領者（以下、助成者）が報告対象である。第 20 回は「メディカルサイエンス分野」「バイオテクノロジー分野」「奨励研究」（バイオテクノロジー関連若手対象）に加え、財団創立 20 周年特別枠「癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究」に対して助成を行なった。

以下に第 20 回助成者の名簿及び報告書を掲載する。（所属は平成 23 年 3 月現在）

第 20 回研究助成者一覧

（1）メディカルサイエンス分野（11 名）

氏名	所属機関	研究題目	ページ
大石 由美子	カリフォルニア州立大学サンディエゴ校 細胞分子医学分野	転写因子の翻訳後修飾を介した代謝 負荷応答機構の解明と創薬標的とし ての展開	44
柏木 明子	弘前大学農学生命科学部 生物資源学科	実験室内進化系を用いた RNA ウイ ルスの進化に関する研究	46
北畠 康司	大阪大学大学院医学系研究科 小児科学教室	Wnt 阻害因子 sFRP3 による側頭葉て んかんの発症機序の解明と新たな治 療法の開発	48
関根 勇一	北海道大学大学院薬学研究院 衛生化学研究室	低分子量二重特異性ホスファターゼ による STAT3 活性制御機構の解明	50
鄒 鶴	岩手医科大学薬学部 神経科学講座	アミロイド β 蛋白の脳内蓄積におけ るアンギオテンシン変換酵素 (ACE) の意義	52
竹ヶ原 宜子	ペンシルバニア大学薬学部 Department of Pathology and Laboratory Medicine Yongwon	破骨細胞のポドソームにおける Rac の活性化因子・FRAP2 の役割	54
西川 博嘉	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学	制御性 T 細胞抑制解除による新規が んワクチン療法開発	56
HEISSIG BEATE	東京大学医科学研究所 フロンティア研究拠点	血液線維素溶解系亢進に伴う組織再 生促進機構の解明	58
坂内 博子	理化学研究所脳科学総合研究センター 発生神経生物研究チーム	GABA 作動性シナプス安定化機構の 解明とてんかん治療のための創薬タ ーゲットの探索	60
福田 光則	東北大学大学院生命科学研究科 生命機能科学専攻	新規 Rab32/38 結合蛋白質によるメ ラノソーム成熟機構の解析	62
眞部 孝幸	藤田保健衛生大学総合医科学研究所 遺伝子発現機構学研究分野	新規 RNA 結合蛋白質 HMGA1a が誘 導する孤発性疾患での異常スプライ シングの解明	64

(2) バイオテクノロジー分野 (11名)

氏名	所属機関	研究題目	ページ
井沢 真吾	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科 応用生物学専攻	醸造過程における酵母オルガネラ形態の時空間的解析と分子育種への活用	66
奥島 葉子	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 植物組織形成学講座	高等植物の表皮由来脂質シグナルを介した形態形成機構の解析	68
小澤 岳昌	東京大学大学院理学系研究科 化学専攻分析化学研究室	タンパク質間相互作用を可視化する発光イメージング法の開発	70
加藤 明宣	近畿大学大学院農学研究科 バイオサイエンス専攻	細菌病原性調節ネットワークを標的とするペプチド薬の創製	72
金尾 忠芳	岡山大学大学院 自然科学研究科	無機硫黄化合物の酵素化学の確立	74
神戸 大朋	京都大学大学院生命科学研究科 統合生命科学専攻	糖鎖合成酵素の活性化に必要な金属トランスポーターの同定と物質生産への応用	76
北 将樹	筑波大学大学院数理物質科学研究科 化学専攻生物有機化学研究室	陸棲哺乳類の麻痺性神経毒の構造と機能	78
朽尾 豪人	京都大学大学院工学研究科 分子工学専攻生体分子機能化学講座	多核多次元 NMR による生きた細胞内蛋白質の構造解析法の開発	80
中島 信孝	産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門 遺伝子発現工学研究グループ	アンチセンス RNA による大腸菌代謝経路の改変とピルビン酸の大量生産	82
野田 健司	大阪大学大学院 生命機能研究科医学系研究科	オートファジー活性を制御する新規薬剤スクリーニング法の開発	84
半田 直史	東京大学大学院新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻 バイオ医療知財分野	ゲノムに潜む全く新しい構造と機能をもつ DNase ファミリーの探索と解析	86

(3) 奨励研究助成 (6名)

氏名	所属機関	研究題目	ページ
加治屋 勝子	山口大学大学院医学系研究科 器官制御医科学講座 生体機能分子制御学	血管緊張異常の分子機構と植物ポリフェノール類による選択的阻害機構の解明	88
柴田 貴広	名古屋大学大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 生命機能化学講座	食品由来の神経分化シグナル活性化因子の探索と機能解析	90
善藤 威史	九州大学大学院農学研究科 生物機能科学部門微生物工学分野	乳酸菌における多成分抗菌ペプチドの生産制御機構の解明とその利用	92
谷 修治	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 応用生命科学専攻生命機能化学分野	バイオマスの完全酵素糖化に向けたセルラーゼ大量発現系の構築	94
豊岡 公德	理化学研究所植物科学研究センター 機能開発研究グループ	植物における分泌に関与する4回膜貫通タンパク質の機能解析と物質生産への応用	96
松永 茂樹	東京大学大学院薬学系研究科 分子薬学専攻有機合成化学教室	有用物質生産における環境負荷低減・省エネルギーを指向した新規協奏機能触媒の開発	98

(4) 創立20周年記念特別枠研究助成

「癌分野における基礎から臨床への橋渡し研究」(3名)

氏名	所属機関	研究題目	ページ
上田 龍三	名古屋市立大学大学院医学研究科	ヒト免疫担当細胞移入 NOD/ <i>Shi-scid</i> , IL-2R γ ^{null} マウスを用いた、免疫療法評価システムの確立	100
尾池 雄一	熊本大学大学院生命科学研究部 (医学系) 成育再建・移植医学講座	新規血管・リンパ管新生因子 ANGPTL2 血中動態とがん進展・転移・予後の連関解析	102
森 正樹	大阪大学大学院医学系研究科 消化器外科	癌幹細胞を標的とした新しい消化器癌根治療法の開発研究	104

2. 第22回国際交流助成報告

国内で実施された研究の成果を、平成22年4月から23年3月の間に海外で開催される学会等で発表する研究者に対して、渡航費等の助成を行なった。以下にその助成金受領者(以下、助成者)名簿および参加報告書を掲載する。(所属は報告書提出時のもの)

第22回国際交流助成者一覧

前期 (16名)

氏名	所属機関名	学会名	開催期間	ページ
小澤 俊幸	大阪市立大学大学院 医学研究科形成外科学	The Society for Investigative Dermatology 70th Annual Meeting	H22.5.4-9	108
大松 華子	帝京大学医学部皮膚科学講座	97th Annual Meeting, The American Association of Immunologists	H22.5.7-11	109
前田 将司	兵庫県立大学大学院生命理学研究科	Gordon Research Conference : Ligand Recognition and Molecular Gating	H22.5.16-21	110
岩月 正一郎	名古屋市立大学大学院医学研究科 腎・泌尿器科学分野	1st World Congress of Pediatric Urology American Urological Association 2010 Annual Meeting (共同開催)	H22.5.28-6.3	111
塩田 真己	九州大学大学院医学系学府 臓器機能医学専攻泌尿器科	American Urological Association 2010 Annual Meeting	H22.5.29-6.3	112
李 文静	名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻	Microtubules- Structure, Regulation, Functions	H22.6.2-5	113
肥塚 崇男	京大大学生存圏研究所 附属生存圏学際萌芽研究センター	2nd Banff Conference on Plant Metabolism	H22.6.24-28	114
石井 敦士	福岡大学医学部 小児科学教室	9th European Congress on Epileptology	H22.6.27-7.1	115
三屋 史朗	名古屋大学大学院生命農学研究科 生物圏資源学専攻	XVIII Congress of the Federation of European Societies of Plant Biology	H22.7.4-9	116
宮本 理人	京都大学医学部附属病院 内分泌代謝内科	11th International Convention on Obesity	H22.7.11-15	117
村井 正俊	京都大学大学院農学研究科 応用生命科学専攻 生物機能制御化学分野	16th European Bioenergetics Conference (EBEC2010)	H22.7.17-22	118
木平 孝高	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 薬理学分野	The 16th World Congress on Basic and Clinical Pharmacology (WorldPharma2010)	H22.7.17-23	119
福田 牧葉	東京工業大学大学院 生命理工学研究科分子生命科学専攻	Gordon Research Conferences : Proprotein Processing, Trafficking & Secretion	H22.7.18-23	120
丹羽 隆介	筑波大学大学院 生命環境科学研究科	The 18th International Ecdysone Workshop	H22.7.19-23	121

相馬 雅代	北海道大学大学院理学研究院 生物科学部門	9th International Congress of Neuroethology	H22.8.2-7	122
高橋 里史	慶應義塾大学大学院 医学研究科外科学専攻 (脳神経)	9th Congress of the European Association of Neurooncology	H22.9.16-19	123

下期 (15名)

氏名	所属機関名	学会名	開催期間	ページ
折田 和泉	東京工業大学大学院 生命理工学研究科生物プロセス専攻	International Symposium on Biological Polyesters 2010	H22.10.3-7	124
北舘 祐	自然科学研究機構 基礎生物学研究所生殖細胞研究部門	Cold Spring Harbor Laboratory : Germ Cells Meeting	H22.10.5-9	125
秋山 裕和	九州大学大学院工学府 化学システム工学専攻	International Conference on Chemical Engineering 2010 (ICCE2010)	H22.10.20-22	126
池永 直樹	九州大学大学院医学研究院 臨床・腫瘍外科	41st Annual Meeting of the American Pancreatic Association	H22.11.3-6	127
浅田 直之	東京大学大学院 理学系研究科生物化学専攻	Neuroscience 2010 (40th Annual Meeting of Society for Neuroscience)	H22.11.13-17	128
武田 朱公	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学	Neuroscience 2010 (40th Annual Meeting of Society for Neuroscience)	H22.11.13-17	129
日出山 拓人	東京大学保健・健康推進本部 東京大学医学部附属病院神経内科学 講座	Neuroscience 2010 (40th Annual Meeting of Society for Neuroscience)	H22.11.13-17	130
森谷 純治	千葉大学大学院医学研究院 心血管病態解析学	American Heart Association Scientific Sessions 2010	H22.11.13-17	131
山本 英一郎	熊本大学医学部附属病院 循環器臨床研究先端医療寄附講座	American Heart Association Scientific Sessions 2010	H22.11.13-17	132
篠原 明仁	東京大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科	52nd American Society of Hematology Annual Meeting and Exposition	H22.12.4-7	133
仲野 千秋	東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命工学専攻	The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010)	H22.12.15-20	134
鮒 信学	静岡県立大学食品栄養科学部 食品生命科学科	The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010)	H22.12.15-20	135
片山 耕大	名古屋工業大学大学院工学研究科 未来材料創成工学専攻	The 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2010)	H22.12.15-20	136
矢木 宏和	名古屋市立大学大学院薬学研究科 生命分子構造学分野	International Symposium on Biotechnology	H23.1.3-7	137
大澤 志津江	神戸大学大学院医学研究科 細胞生物学分野 G-COE	52nd Annual Drosophila Research Conference	H23.3.31-4.3	138

Intentionally blank page

V. 平成 22 年度の財団の運営と組織

1. 財団の概要

名 称	財団法人 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 Kato Memorial Bioscience Foundation
設立許可日	1988 年 12 月 23 日
主務官庁	文部科学省
特定公益増進法人許可	2009 年 12 月 14 日更新
基本財産	783,655,510 円 (平成 23 年 3 月 31 日現在)
出 捐 者	協和発酵キリン株式会社 東京都千代田区大手町 1-6-1 大手町ビル

2. 設立の趣旨

資源の乏しい我が国が今後も繁栄を持続していくには、科学技術の発展が不可欠であります。近年、ゲノムやプロテオーム科学などの先端技術や、それを駆使した細胞レベルの研究など、バイオサイエンスの進歩には目覚ましいものがあります。近い将来、この分野で飛躍的な進歩を達成しうるならば、それは我が国の発展のみならず、医療・食糧・環境など地球規模の課題に対しても大きく貢献することが期待できます。

しかし、その実現は容易に成就できるものではなく、長期の視野に立った基礎研究から応用研究まで総合的に推進することが求められます。また、真に価値ある先駆的研究は、個性的で創造性豊かな研究者により、既存の制約を越えた環境下、粘り強い努力の結果、生み出されるものと考えられます。従って、創造的研究を遂行するには、創造的研究の芽を絶やすことなく培うとともに、研究者に対する精神的な援助のみならず、研究の維持継続のための資金的な助成、若い有為な研究者の育成、並びに国際的な学術交流が強く望まれることは言うまでもありません。

協和発酵工業株式会社の創立者である加藤辨三郎氏は、「バイオサイエンスとテクノロジーの進歩を通して企業活動を発展させるとともに科学技術振興を図り、社会の発展と人類の福祉に貢献する」ことを経営理念としておりました。加藤氏は、昭和 58 年（1988 年）永眠しましたが、40 年余におよぶ会社経営の他に、我が国の多くの科学技術委員会などに関与した体験を通して、バイオサイエンス振興の一層の必要性を強調しておりました。

協和発酵工業株式会社は、こうした加藤氏の遺志をつぎ、また総合的かつ領域横断的にバイオサイエンス研究を振興することの重要性を認識し、同社創立 40 周年記念事業の一環として、昭和 63 年（1988 年）12 月 23 日、財団法人加藤記念バイオサイエンス研究振興財団を設立いたしました。

3. 目 的

(寄附行為第 3 条)

この法人は、バイオサイエンスの分野における研究者に対する助成ならびにシンポジウム・研究会

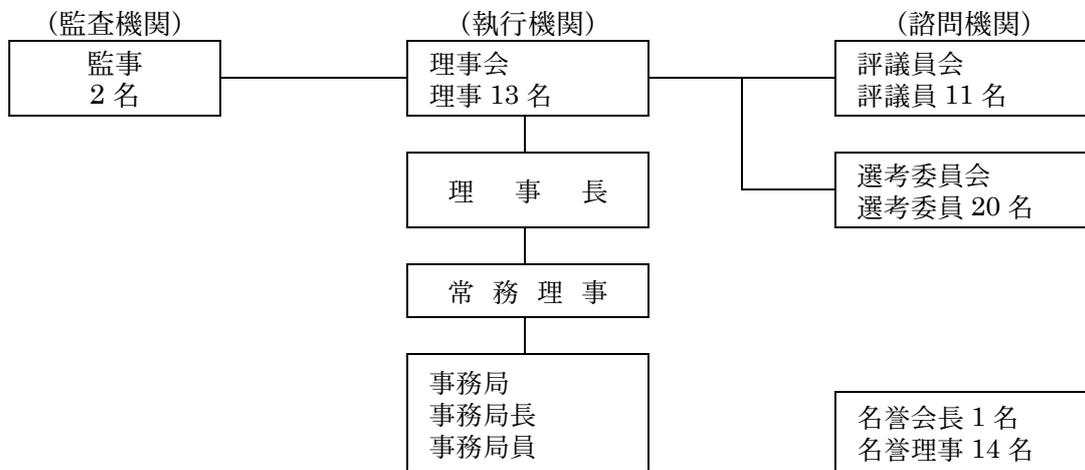
の開催・助成を行なうことにより、科学技術の振興をはかり、もって社会経済の発展に寄与することを目的とする。

(寄附行為第4条)

この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

- (1) バイオサイエンスおよびこれに関連する分野における研究者に対する助成
- (2) バイオサイエンスおよびこれに関連する分野における研究者の国際交流の助成
- (3) バイオサイエンスおよびこれに関連する分野におけるシンポジウム・研究会の開催および助成
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

4. 組織 (平成22年4月1日現在)



VI. 助成実績および財務状況推移

(1) 研究助成

回	年度 (平成)	応募件数	各年度		累計	
			助成者数	助成額 (万円)	助成者数	助成額 (万円)
第1回	元年	18	15	3,120	15	3,120
第2回	2年	96	18	3,600	33	6,720
第3回	3年	100	20	4,000	53	10,720
第4回	4年	122	24	4,320	77	15,040
第5回	5年	103	20	4,000	97	19,040
第6回	6年	104	20	4,000	117	23,040
第7回	7年	102	20	4,000	137	27,040
第8回	8年	112	20	4,000	157	31,040
第9回	9年	104	20	4,000	177	35,040
第10回	10年	109	22	4,400	199	39,440
第11回	11年	96	22	4,400	221	43,840
第12回	12年	113	22	4,400	243	48,240
第13回	13年	101	23	4,600	266	52,840
第14回	14年	100	22	4,400	288	57,240
第15回	15年	106	23	4,600	311	61,840
第16回	16年	117	23	4,600	334	66,440
第17回	17年	102	23	4,600	357	71,040
第18回	18年	171	28	5,000	385	76,040
第19回	19年	182	28	5,000	413	81,040
第20回	20年	252	31	5,900	444	86,940
第21回	21年	251	25	5,000	469	91,940
第22回	22年	251	25	5,000	494	96,940

(2) 国際交流助成

回数	年度 (平成)	応募件数	各年度		累計	
			助成者数	助成額 (万円)	助成者数	助成額 (万円)
第1回	元年	15	10	300	10	300
第2回	2年	52	10	300	20	600
第3回	3年	45	15	450	35	1,050
第4回	4年	95	26	600	61	1,650
第5回	5年	89	22	575	83	2,225
第6回	6年	102	24	600	107	2,825
第7回	7年	97	26	600	133	3,425
第8回	8年	83	30	745	163	4,170
第9回	9年	108	31	740	194	4,910
第10回	10年	114	33	750	227	5,660
第11回	11年	71	32	760	259	6,420
第12回	12年	72	32	750	291	7,170
第13回	13年	78	31	715	322	7,885
第14回	14年	63	33	735	355	8,620
第15回	15年	70	33	745	388	9,365
第16回	16年	63	32	750	420	10,115
第17回	17年	64	30	740	450	10,855
第18回	18年	50	30	715	480	11,570
第19回	19年	74	35	740	515	12,310
第20回	20年	121	31	735	546	13,045
第21回	21年	63	28	705	574	13,750
第22回	22年	109	31	770	605	14,520

(3) 学会等開催助成

回	年度 (平成)	各年度		累計	
		助成件数	助成額 (万円)	助成件数	助成額 (万円)
第1回	2年	3	90	3	90
第2回	3年	4	80	7	170
第3回	4年	5	100	12	270
第4回	5年	5	100	17	370
第5回	6年	6	100	23	470
第6回	7年	5	100	28	570
第7回	8年	5	100	33	670
第8回	9年	7	110	40	780
第9回	10年	5	100	45	880
第10回	11年	7	100	52	980
第11回	12年	5	100	57	1,080
第12回	13年	5	100	62	1,180
第13回	14年	5	100	67	1,280
第14回	15年	5	100	72	1,380
第15回	16年	5	100	77	1,480
第16回	17年	5	100	82	1,580
第17回	18年	7	140	89	1,720
第18回	19年	6	120	95	1,840
第19回	20年	5	100	100	1,940
第20回	21年	10	200	110	2,140
第21回	22年	10	200	120	2,340
第22回	23年	10	200	130	2,540

(4) 財務状況推移

年度	基本財産 (総額) (千円)	運用財産収入 (単年度) (千円)
昭和 63 年	200,000	10,000
平成元年	500,000	50,000
平成 2 年	500,000	20,000
平成 3 年	502,000	30,000
平成 4 年	504,000	40,000
平成 5 年	505,000	50,000
平成 6 年	655,000	50,000
平成 7 年	706,000	130,000
平成 8 年	706,000	70,000
平成 9 年	706,000	70,000
平成 10 年	706,000	75,000
平成 11 年	706,000	70,000
平成 12 年	706,000	0
平成 13 年	706,000	70,000
平成 14 年	706,000	75,000
平成 15 年	706,000	75,000
平成 16 年	706,000	75,000
平成 17 年	706,000	72,000
平成 18 年	706,000	72,000
平成 19 年	706,000	72,000
平成 20 年	706,000	90,000
平成 21 年	706,000	76,000
平成 22 年	783,656	72,000

※基本財産は各年度末日の保有額

VII. 平成 22 年度募集要項

第 22 回（平成 22 年度）加藤記念研究助成募集要項

1. 助成の趣旨

本研究助成は、バイオサイエンス分野における有能な若手研究者を見出し、その創造的かつ先駆的研究を支援することを目的とする。

2. 助成対象研究領域・課題

(1) 研究助成

① 「メディカルサイエンス分野」

医薬・医療への応用を念頭に行う基礎的研究（以下は例示）

- ・ 哺乳動物の個体、組織、細胞等を用いた生理・薬理・病理現象等を解析する研究
- ・ 臨床応用を目指した基礎研究（医薬品候補の探索・生産研究は除く）
- ・ 病態診断技術の開発及びその基礎となる研究

② 「バイオテクノロジー分野」

生物材料や生物機能を利用し、物質生産、有用物質探索、汎用技術の開発・応用等を念頭に行う研究（以下は例示）

- ・ 微生物、植物、動物等の機能を解析・利用して物質生産に繋げようとする研究
- ・ 生理活性物質・有用物質（医薬品候補含む）の探索、構造解析等に関する研究
- ・ 食糧・環境・エネルギー等に関わる生物材料や生物機能等を利用した基礎的研究

(2) 指定研究助成：「癌分野における基礎研究から臨床への橋渡し研究」

疾患に対する具体的な診断法・治療法が既に開発されており、その臨床応用を目指す研究、及びそれに準ずるもの。

3. 応募資格

国内の大学又は公的研究機関に所属し、以下条件を満たす研究者とする。

(1) 年齢（8月31日現在）

- ・ 研究助成：男性は40才以下、女性は45才以下
- ・ 指定研究助成：男性は45才以下、女性は50才以下

(2) 除外対象

- ・ 学生、大学院生
- ・ 過去に本助成を受領し3年間経過していない人（第19回以降の助成（平成20年4月以降研究開始）を受けた方は対象外）
- ・ 当財団選考委員と同一研究室に所属する人
- ・ 国外での研究
- ・ 類似研究（目的又は手段が実質同一）に対し、本年度に年間1,000万円以上の公的助成（科研費等）又は当財団助成金額を超える助成金を他財団等から受ける人

4. 助成金額

(1) 研究助成（総額 4,400 万円）

メディカルサイエンス分野 12 件、各 200 万円

バイオテクノロジー分野 10 件、各 200 万円

(2) 指定研究助成（総額 600 万円） 3 件、各 200 万円

5. 応募方法

当財団所定の書式により、下記の2種の書面をともに提出。書式はいずれも財団ホームページよりダウンロード可能。

(1) 書面提出

- ・ 「申請書」：正1通（片面印刷）、副3通（両面印刷、正の白黒両面コピーで可）
- ・ 「推薦書」：正1通、副3通（正の白黒コピーで可）

(2) メール添付提出

- ・ 「申請概要」：エクセル表に必要事項を記入しファイル添付の上メール送信。この際、ファイル名及びメール件名を「第22回加藤記念研究助成（申請者氏名を記入）」とすること。

6. 推薦者

推薦者は以下の通りとし、各推薦者の推薦枠は1件とする（複数の組織長兼務の場合は各組織長名で推薦可能。付属病院長の推薦は不可）。

(1) 大学

- ・ 学部長、大学院研究科長又は研究所長（単科大学の場合は学長）
- ・ 学部と同一系列・機能の大学院研究科は、合わせて推薦枠1件とする（例：医学部と大学院医学系研究科）。
- ・ 研究機関大規模研究機関・機構の場合
- ・ 研究機関（大規模研究機関・機構の場合は傘下の各研究所）の長

(3) 当財団の理事又は評議員（ただし、自身の研究室所属研究者は対象外）

7. 募集開始と応募締切日

- ・ 開始日：平成22年6月14日（月）
- ・ 締切日：平成22年8月31日（火）（当日消印可）

8. 選考及び決定

- (1) 平成22年12月に開催の当財団選考委員会で選考の上、平成23年2月開催の評議員会の同意を得て理事会で決定
- (2) 同等水準が採択数を超える場合、選考基準として以下を考慮
 - ・ 新設・小規模の研究機関を優先
 - ・ 研究室・テーマ立ち上げ状況を考慮
 - ・ 女性研究者を優先
 - ・ 若手研究者を優先
 - ・ 地域性を考慮

9. 採否通知

- (1) 内定通知：平成22年12月31日までに採択予定者に電子メール連絡（受領確認）
- (2) 正式通知：平成23年2月28日までに申請者に書面で通知

10. 助成金の贈呈

(1) 贈呈式

平成23年3月4日（金）如水会館（東京都）にて開催するので参加のこと。旅費支給。

(2) 助成金贈呈方法

- ・ 平成23年3月末までに本人又は所属研究室等の銀行口座に振込む。
- ・ 本財団が大学等に直接寄附する奨学寄附金等の形態は採らないが、本人が所属機関に奨学寄附金等として再寄附のうえ、本助成の条件で利用することは認める。

11. 助成金の使途

- ・ 申請し採択された研究内容に限る。
- ・ 物品購入費用に限定せず、本人が使用する旅費・会議参加費・外注費等も認める。ただし、共同研究者の労務費、研究根幹に関わる外部委託費用は対象外。
- ・ 研究機関又は研究室全体の間接経費・一般管理費（オーバーヘッド）は認めない。
- ・ 使用期間は平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日（2 年間）。

12. 研究成果等の報告

(1) 研究成果報告書

平成 25 年 3 月末迄に所定書式で提出（A4 書式 2 枚程度、研究期間終了前に書式連絡）。全文を当財団の年報、ホームページ等に掲載し、概要は文部科学省国立情報学研究所のデータベースに登録。

(2) 収支報告書

平成 25 年 4 月末までに提出

(3) 報告・交流会

平成 25 年 10 月に東京近辺にて開催するので参加のこと。旅費支給。

13. その他

- ・ 募集要項と共に「研究助成 Q&A」を財団のホームページに掲載している。研究助成についてよくある質問及び補足事項について説明しているので参照のこと。
- ・ 本助成に関して取得した個人情報は、ホームページ掲載の「個人情報の取扱いについて」に従い、本助成に必要な業務に限定して利用する。
- ・ 助成決定者については、財団のホームページ、年報や報道機関その他により、氏名、所属機関、職名、助成対象となった研究題目等を公表する。
- ・ 提出された申請関係書類は、採否にかかわらず返却しない。

以上

第 22 回（2010 年度）加藤記念国際交流助成募集要項

1. 助成対象者：

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で自己の研究成果を発表する日本国内在住の研究者（外国籍研究者を含む）。

前期（4/1～9/30 の発表）および、後期（10/1～翌年 3/31 の発表）の 2 回に分けて公募する。

2. 申込資格：

応募締切日に 35 歳以下の方（医学科・歯学科卒業者は 37 歳以下の方）。

①応募は 1 教室（研究室）から 1 件（年間）。

②本財団から過去 3 年以内に助成（研究助成を含む）を受けた方は対象外。

（第 18 回研究助成・第 19 回国際交流助成以降の受領者は対象外）

③他財団等の同様の助成に応募頂くことは構いませんが、同一学会等に重複助成となった場合は何れかの辞退をお願いします。

3. 推薦者：

申請者の現所属機関またはその研究が行われた機関の上長（学部長、主任教授、研究指導教官など）。推薦は 1 名に限ります。

4. 助成内容：

渡航経費（旅費・滞在費・参加費）の一部を援助。

5. 助成金額：

年間予算総額 750 万円。（前期後期合わせて 30 件程度）。

《渡航地域別の 1 件当たり助成金額（目安）》

・欧州・南米・アフリカ： 万円万円

・北米（東部）・メキシコ： 25 万円

・ロシア・西南アジア： 25 万円

・北米（西部）・オセアニア・インド： 20 万円

・東南アジア： 15 万円

・東アジア（中国・韓国・台湾）： 10 万円

※予算・選考状況により多少変動する場合があります。

6. 応募方法：

当財団所定の申請書に必要事項を記入の上、正本 1 部とそのコピー 3 部（合計 4 部）を郵送で事務局までお送り下さい。同時に電子申請概要（エクセル）を、メールに添付して事務局まで送信ください。

7. 応募期間：

①前期（4/1～9/30 の発表）；平成 22 年 1 月 8 日～2 月 28 日（消印有効）。

②後期（10/1～翌年 3/31 の発表）；平成 22 年 7 月 1 日～8 月 31 日（消印有効）。

8. 審査方法：

当財団の選考委員による審査の上、評議員会議長および理事長の承認を得て決定。

9. 採否の通知：

- ①前期 ; 3月下旬に申請者に通知。
- ②後期 ; 9月下旬に申請者に通知。

10. 申請書：

財団ホームページ (<http://www.katokinen.or.jp/>) より申請書(ワード)および電子申請概要(エクセル)をダウンロードしてください。

11. 報告書提出：

助成を受けた方は、帰国後1ヶ月以内にA4 1枚程度の報告書を提出して下さい。当財団の「財団年報」等に掲載する予定です。

12. 情報公開：

助成が決定した場合、氏名、所属機関、職名、参加学会名、演題等をホームページ等により公開します。

連絡先： (財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 事務局
住所： 〒194-8533 東京都町田市旭町 3-6-6
TEL： 042-725-2576 FAX： 042-729-4009
E-Mail： ben.kato.zaidan@kyowa-kirin.co.jp

2011年度（2011年度開催）第22回学会等開催助成募集要項

1. 助成対象

2011年度(平成23年4月～平成24年3月)に国内で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等。ただし以下全ての条件を満たすもの。

- ・ 原則として参加者が1,000人以下のもの
- ・ クローズドな会でなく外部／新たな参加者を認めるもの
- ・ 当財団の理事・評議員・選考委員が責任者又はそれに準ずる立場にないもの

2. 助成金額

1件20万円、10件（総額200万円）

3. 応募期間

2010年10月1日～31日（当日消印有効）

4. 推薦者

当財団理事又は評議員の推薦が必要（各人1件の推薦枠）
推薦者は申請者の所属機関の長や役員でないこと

5. 応募方法

当財団所定の申請書に必要事項を記入の上、郵送で事務局までお送りください。

学会等の開催予定に関する資料があれば申請書に添付してください。

※適当な推薦者がいない場合、推薦者欄は空白で結構です。申請書受理後、事務局で理事・評議員に推薦可否を確認します。

6. 選考及び決定

2010年12月開催の当財団選考委員による選考会の結果に基づき、2011年2月開催の理事会で決定します。

応募数が採択枠を超えた場合、選考基準として以下を考慮します。

- ①新設・小規模のものを優先
- ②予算が少ないものを優先
- ③今後の発展性が高いものを優先
- ④定期開催等の実績少ないものを優先
- ⑤大きな大会の一部として開催される個々のシンポジウム等は優先度を下げる
- ⑥過去に本助成を受けた回数の少ないものを優先

7. 採否通知

2011年2月28日までに申請者及び推薦者に通知します。

8. 結果報告

開催後、財団事務局宛に講演要旨集及び報告書（1枚程度で可）を提出してください。

連絡先：（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団 事務局
住所：〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6
TEL：042-725-2576 FAX：042-729-4009
E-Mail：ben.kato.zaidan@kyowa-kirin.co.jp

VIII. 平成 22 年度財団役員等

理 事

(平成 22 年 4 月 1 日現在)

理事長 (非常勤)	平 田 正	協和発酵キリン(株)名誉相談役
常務理事 (常勤)	高 橋 充	協和発酵キリン(株)嘱託
理事 (非常勤)	大 塚 榮 子	北海道大学名誉教授 (独)産業技術総合研究所名誉フェロー
	大 村 智	(学)北里研究所名誉理事長 北里大学名誉教授
	折 茂 肇	健康科学大学学長
	垣 添 忠 生	(独)国立がん研究センター名誉総長 日本対がん協会会長
	香 川 靖 雄	自治医科大学名誉教授 女子栄養大学副学長
	岸 本 忠 三	大阪大学大学院生命機能研究科教授 (財)千里ライフサイエンス振興財団理事長
	木 村 光	京都大学名誉教授 (株)グリーンバイオ代表取締役
	郷 通 子	情報・システム研究機構理事
	高 久 史 麿	東京大学名誉教授 自治医科大学学長
	別 府 輝 彦	東京大学名誉教授
森 謙 治	東京大学名誉教授	

監 事

監事 (非常勤)	伊 藤 醇	公認会計士
	樋 口 節 夫	新日本有限責任監査法人シニアパートナー 公認会計士

評議員

評議員 (非常勤)	小 川 秀 興	順天堂大学理事長
	尾 崎 明 夫	協和発酵バイオ(株)技術顧問
	勝 木 元 也	基礎生物学研究所名誉教授 自然科学研究機構理事 (独)日本学術振興会学術システム研究センター副所長
	北 原 武	帝京平成大学薬学部教授 東京大学名誉教授 (学)北里研究所・北里大学客員教授

	谷口 維紹	東京大学大学院医学系研究科教授
	長澤 寛道	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	長田 重一	京都大学大学院医学研究科教授
	西川 伸一	(独)理化学研究所発生・再生科学総合研究センター副センター長
	福山 透	東京大学大学院薬学系研究科教授
	三箇山 俊文	協和発酵キリン(株)執行役員
	三品 昌美	東京大学大学院医学系研究科教授

名誉会長・名誉理事

名誉会長 (非常勤)	木下 祝郎	元協和発酵工業(株)会長
名誉理事 (非常勤)	池原 森男	大阪大学名誉教授
	伊藤 正男	東京大学名誉教授 (独)理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問
	井上 一郎	東京工業大学名誉教授
	岡田 吉美	東京大学名誉教授
	小田 鈎一郎	元 東京大学医科学研究所教授
	榑 佳之	豊橋技術科学大学学長
	清水 喜八郎	光仁会病院顧問
	菅野 晴夫	(財)癌研究会顧問
	中嶋 暉躬	東京大学名誉教授 星薬科大学学長
	早石 修	京都大学名誉教授 (財)大阪バイオサイエンス研究所理事長
	藤巻 正生	東京大学名誉教授 お茶の水女子大学名誉教授 (財)食生活研究会理事長
	松井 正直	東京大学名誉教授
	柳田 敏雄	大阪大学大学院生命機能研究科特任教授 (独)情報通信研究機構 上席客員研究員

	山田 秀明	京都大学名誉教授 富山県立大学名誉教授
--	-------	------------------------

名誉会長・名誉理事

選考委員長 (非常勤)	山根 久和	東京大学生物生産工学研究センター教授
副選考委員長 (非常勤)	岩坪 威	東京大学大学院医学系研究科教授
選考委員 (非常勤)	一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科教授
	長田 裕之	(独)理化学研究所基幹研究所ケミカルバイオロジー研究 基盤施設施設長
	加藤 茂明	東京大学分子細胞生物学研究所教授
	後藤 由季子	東京大学分子細胞生物学研究所教授
	阪井 康能	京都大学大学院農学研究科教授
	坂口 志文	京都大学再生医科学研究所教授
	佐藤 隆一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	鈴木 啓介	東京工業大学大学院理工学研究科教授
	清木 元治	東京大学医科学研究所所長
	高橋 淑子	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授
	戸井 雅和	京都大学大学院医学研究科教授
	中村 春木	大阪大学蛋白質研究所教授
	中山 亨	東北大学大学院工学研究科教授
	西山 真	東京大学生物生産工学研究センター教授
	畠 清彦	(財)癌研究会・有明病院化学療法科兼血液腫瘍科部長
畠山 昌則	東京大学大学院医学系研究科・医学部教授	
間野 博行	自治医科大学ゲノム機能研究部教授 東京大学大学院医学系研究科特任教授	
三森 経世	京都大学大学院医学研究科教授	

木下祝郎名誉会長を悼む



<ご略歴>

昭和 16 年 3 月	東京帝国大学農学部卒業
昭和 21 年 6 月	協和産業（後の協和発酵）入社
昭和 33 年 3 月	協和発酵工業(株)東京研究所長
昭和 39 年 2 月	同社 取締役
昭和 50 年 2 月	同社 代表取締役副社長
昭和 53 年 3 月	同社 代表取締役社長
昭和 59 年 3 月	同社 取締役会長
昭和 61 年 3 月	同社 相談役
平成 元年 3 月	加藤記念財団会長
平成 9 年 4 月	同財団 名誉会長
平成 23 年 3 月	逝去 享年 95 歳

<栄誉>

昭和 33 年 4 月	大河内記念賞受賞 (発酵法によるグルタミン酸の工業的製法)
昭和 41 年 5 月	日本学士院賞受賞 (微生物による天然型アミノ酸の生産方法)
昭和 41 年 9 月	紫綬褒章受章
昭和 61 年 8 月	チャールズ・トム賞受賞
昭和 61 年 11 月	勲二等旭日重光章受章
平成 23 年 3 月	叙正四位

当財団の木下祝郎名誉会長が平成 23 年 3 月 19 日に逝去されました（享年 95 歳）。

木下名誉会長は、ご自身が優れた研究者でありまた企業経営者としてのご経歴をお持ちですが、終生、科学技術の振興に熱心であられました。昭和 63 年の当財団設立では、設立発起人の一人として、財団の理念、事業の基本骨格策定で中心的役割を果たされました。財団設立とともに会長に就任し、今日の財団の基礎を築かれました。平成 9 年名誉会長就任後も財団を暖かく見守ってくださり、財団事務局にも年に何回かはお見えでした。財団の活動概況を楽しそうに聞いておられました。お言葉の端々から高い志を持つことの重要性について教えていただきました。

若手との研究談義とお酒をこよなく愛し続け、本年 3 月 4 日の財団研究助成贈呈式でもいつも通りお元気に多くの方と懇談しておられました。その直後の訃報でしたので本当に驚きました。

木下名誉会長を語るとき、もう一つ忘れてならないのが「グルタチオン（生体内生理活性ペプチド）」です。グルタチオンについては、経営者の時代から、また科学者、個人の立場からも、その重要性を唱え続けておられました。近年でも、グルタチオンに関する新しい話題に接するとすぐに関係者に調査依頼するのが常でした。歴代の財団事務局員もこの“被害”に遭っていました。いつまでも自然科学に謙虚で、また知的好奇心に溢れた方でした。

新公益法人制度移行については、本年 2 月に申請したことまでしか、生前にはご報告できませんでした。このたび 7 月 1 日より公益財団法人として新たなスタートを切るにあたり、財団の理念を大切に、活動を継続・発展させることをお誓いいたします。

木下名誉会長の長年に亘るご指導に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（高橋充、財団常務理事）

おわりに

事務局長 江口 有

平成 22 年度の財団年報をお届けいたします。

東日本大震災およびそれに伴う津波、原発事故の被災者の皆様へ心からお見舞い申し上げます。財団の役員や助成者の先生に被災地域の方が少なからずおられました。生活面において多大なご苦勞があったことはもちろん、研究環境にも甚大な影響があったことと拝察いたします。一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

さて平成 22 年度の財団の最大のトピックスは、公益財団法人への移行認定の申請を行ったことです。その後無事に認定を受け、7 月 1 日付で公益財団法人に移行しました。ご指導を頂いた関係各位に御礼を申し上げます。

当財団は収益事業もなく比較的わかり易い事業を行う財団であり、事務局に凡ミスがなければそれほど認定に支障はないと思いつつも、当初は複雑な申請手続きに五里霧中の状態でした。なんとか申請に漕ぎつけた後も、うわさに聞いていた厳しい審査で何を言われるのかとヒヤヒヤしていましたが、意外とそうでもない様で安心しました。ところが認定直前になって申請書の修正指示があり、本音では必ずしも納得のゆく指示ではなかったのですが、関係者の理解を得て修正対応しました。

大過なく認定を得られたのには幾つか要因があったように思います。公益法人協会や先行財団から情報を得て申請書の作成に万全を期したことが最も大きな要因でした。また先行財団からは担当官によっては随分厳しいと脅されていたのですが、当財団の担当者は理解のある方で助かりました。さらにどうやら平成 23 年度に入ってから審査基準が若干変わったようでした。従来のように「厳しく査定する」審査から、「温かく公益事業に寄り添う」審査へと変わったような印象を受けました。要するに、先行財団の状況を見極めて情報を集め、第二集団に加わって遅れることなく認定を受ける、という常務理事の戦略が当たったのだと思います。詳しい経緯は本文 34 ページを是非ご覧下さい。

公益財団法人になりましても、バイオサイエンスの振興に尽力してまいりますので、引き続きご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

今年1年を振り返ると、コンピューター周りの業務にエネルギーを注いだと感じます。まず、公益財団法人への移行に伴い、経理担当として財務諸表の変更作業を行いました。その際には昨年導入した会計システムが大変役立ちました。予算組み替え、平成20年度新基準へ変更した決算書雛形の作成、新制度に基づいた科目の変更や追加など、手作業だったとしたらこれは大変な時間と労力、加えて計算能力も必要だったと思います。システムを動かすのは人間ですので機嫌良く動作開始するまでは育て上げる必要がありますが、動き出すととても力強い相棒です。担当者の心細い暗算能力をおぎなって活躍する各種システムに、感謝の気持ちでキーボードを打つ毎日です。

また新公益財団法人として、財団ホームページを刷新致しました。助成申請の最初の窓口としてホームページを機能させるため、申請関連書類のわかりやすいダウンロードやQ&Aの充実、また情報発信場所としての写真やメッセージの掲載など、効率化だけではなく利用しやすい構成を心掛け制作を行いました。数ヶ月をかけて、写真選定、文字の色形やサイズ、リンク先、ダウンロードのファイルの設定、小さな記号やアイコンのデザインにいたるまで、細部までこだわった力作ができあがりました。我々が描く理念をイメージとした新Topページはいかがでしょうか。これからもわかりやすく開かれた財団を目指して活動を続けていきたいと思っております。

(事務局 奥村 美香)

(公財)加藤記念バイオサイエンス振興財団 平成22年度 年報 (第12号)

発行日	平成23年8月1日
発行者	理事長 平田 正
編集者	常務理事 高橋 充 事務局長 江口 有
発行所	公益財団法人 加藤記念バイオサイエンス振興財団 Kato Memorial Bioscience Foundation 〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6 電話：042-725-2576 ファックス：042-729-4009 メール：ben.kato.zaidan@kyowa-kirin.co.jp ホームページ：http://www.katoken.or.jp
印刷	芝サン陽印刷株式会社 〒104-0033 東京都中央区新川1-22-13
